

令和4年度

事業実績報告書

学校法人 佐保会学園

奈良佐保短期大学

附属生駒幼稚園

認定こども園附属河内長野幼稚園

附属倉敷幼稚園

令和4年度に係る事業の実績報告

奈良市鹿野園町 806
学校法人 佐保会学園

I 法人の概要等	3
1. 法人の目的	3
2. 既設校の内容	3
3. 法人等の沿革	3
4. 歴代理事長、学長及び園長	5
(1) 理事長	5
(2) 学長	5
(3) 園長	6
5. 奈良佐保短期大学名誉教授	6
6. 運営・組織機構（主たる業務・分掌を含む）	6 (61)
7. 役員	6
8. 理事会、評議員会の開催状況	7
(1) 理事会	7
(令和3年度)	7
(令和4年度)	8
(2) 評議員会	8
(令和3年度)	8
(令和4年度)	9
9. 役職員	10
(1) 法人本部	10
(2) 奈良佐保短期大学	10
(3) 附属幼稚園	10
10. 職員数	11
・教員等の現員	11
11. 附属図書館	11
(1) 図書及び雑誌	11
(2) サービス状況	11
12. 外部資金	12
科学研究費補助金	12
II 財務の概要	12
1. 監事の監査状況と監査内容	12
2. 公認会計士の監査状況	13
3. 貸借対照表の要約	13
4. 財産目録の要約	14
5. 資金収支・事業活動収支の要約	15
(1) 資金収支決算	15
(2) 事業活動収支決算	16
(3) 教育研究経費比率	17
6. 土地建物	17

Ⅲ 事業の概要	18
1・奈良佐保短期大学	18
2・附属生駒幼稚園	51
3・認定こども園附属河内長野幼稚園	55
4・附属倉敷幼稚園	57

学校法人 佐保会学園 令和4年度に係る事業の実績報告

I 法人の概要等

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、教養高く、かつ、専門的、職業的能力を有する優れた人材を育成することを目的とする。

2. 既設校の内容

法人の名称：学校法人佐保会学園		事務所の所在地：奈良市鹿野園町806		
学校名	学科・課程名（修業年限）	開設年度	入学定員 (人)	収容定員 (人)
奈良佐保短期大学	生活未来科（2年） 生活福祉コース 食物栄養コース ビジネスキャリアコース	平21	80	160
	地域こども学科（2年） こども教育コース こども保育コース	平22	100	200
	日本語教育別科（1年）	平22	20	20
附属生駒幼稚園	} 5歳児（1年保育） 4歳児（2年保育） 3歳児（3年保育）	昭52		220
認定こども園		昭49		60
附属河内長野幼稚園		昭51		115
附属倉敷幼稚園				

所在地	奈良佐保短期大学	奈良市鹿野園町 806
	附属生駒幼稚園	生駒市鹿ノ台南2-12
	認定こども園	
	附属河内長野幼稚園	河内長野市大矢船中町10-1
	附属倉敷幼稚園	倉敷市徳芳869-116

3. 法人等の沿革

昭和6年4月1日	奈良女子高等師範学校（現・奈良女子大学）同窓会佐保会によって各種学校佐保女学院（奈良佐保短期大学の前身）が開設される
昭和40年1月25日	学校法人佐保会学園設立の認可を受ける
昭和40年1月25日	佐保女学院短期大学設置の認可を受ける
昭和40年4月1日	同短期大学開設（家政科入学定員100名）する
昭和40年12月3日	1号館 竣工
昭和42年3月21日	2号館 竣工
昭和42年3月23日	栄養士養成課程（入学定員50名）設置の認可を受ける
昭和42年4月1日	家政科を家政専攻（入学定員100名）と食物栄養専攻（入学定員50名）に変更する
昭和42年4月1日	栄養士養成課程を開設する
昭和43年7月29日	佐保女学院短期大学を奈良佐保女学院短期大学と校名変更の認可を受ける

昭和48年	2月	4日	初等教育学科の設置の認可を受ける（入学定員50名）
昭和48年	2月	4日	家政科を家政学科と学科名の変更の認可を受ける
昭和48年	2月	4日	家政学科の入学定員を家政学専攻50名、食物栄養専攻50名計100名に変更の認可を受ける
昭和48年	3月	31日	3号館、4号館 竣工
昭和48年	4月	1日	初等教育学科（入学定員50名）を開設する
昭和49年	3月	8日	学校法人佐保学園河内長野佐保幼稚園設置認可を受ける（大阪府）
昭和49年	4月	1日	同幼稚園開設（入園定員120名）
昭和51年	2月	12日	初等教育学科の入学定員を100名に増員の認可を受ける
昭和51年	2月	12日	家政学科の入学定員を100名に増員の認可を受ける
昭和51年	3月	25日	5号館 竣工
昭和51年	12月	11日	学校法人佐保学園倉敷佐保幼稚園設置認可を受ける（岡山県）
昭和51年	4月	1日	同幼稚園開設（入園定員80名）
昭和52年	4月	12日	学校法人佐保学園生駒佐保幼稚園設置認可を受ける（奈良県）
昭和52年	9月	1日	同幼稚園開設（入園定員200名）
昭和54年	4月	30日	体育館 竣工
昭和58年	3月	31日	奈良県認可の学校法人佐保学園に河内長野佐保幼稚園及び倉敷佐保幼稚園を吸収合併の認可を受ける
昭和60年	12月	25日	家政学科家政専攻の入学定員を100名に、初等教育学科の入学定員を150名に増加認可を受ける
昭和60年	12月	25日	家政学科家政専攻の入学定員を100名の臨時増員の認可を受ける（期間 昭和61年4月1日～平成12年3月31日）
昭和63年	1月	29日	家政学科を生活科学科と学科名を変更する 家政専攻を生活科学専攻と専攻名の変更の認可を受ける
平成 2年	3月	31日	6号館 竣工
平成 4年	8月	31日	学校法人佐保会学園が学校法人佐保学園を合併する認可を受ける
平成 5年	4月	1日	生駒佐保幼稚園、河内長野佐保幼稚園及び倉敷佐保幼稚園をそれぞれ奈良佐保女学院短期大学附属生駒幼稚園、同附属河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園とする
平成11年	4月	1日	生活科学科生活科学専攻を分離し、生活福祉専攻（介護福祉養成施設等指定）を設置する生活科学専攻の恒常的入学定員を40名減じ、生活福祉専攻の入学定員を60名とする
平成12年	3月	31日	生活科学科生活科学専攻の入学定員100名の臨時増員を廃止減員する
平成13年	4月	1日	奈良佐保女学院短期大学を奈良佐保短期大学に、奈良佐保女学院短期大学附属生駒幼稚園、同河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園を奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園、同河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園に名称変更を行うとともに、奈良佐保短期大学にあっては受入学生を男女共学とする
平成13年	4月	1日	初等教育学科を幼児教育科と学科名を変更する
平成14年	4月	1日	生活科学科生活科学専攻を廃止する
平成15年	4月	1日	専攻科（福祉専攻：定員30名）を設置する
平成16年	11月	8日	自己点検評価室を設置する
平成17年	4月	1日	情報メディアセンターを設置する
平成19年	9月	28日	生活科学科生活福祉専攻入学定員を10名減じ50名とし、幼児教育科入学定員を130名に増加認可（平成20年度～）を受ける
平成19年	10月	17日	附属倉敷幼稚園の入園定員を25名増し105名に増加認可（平成20年度～）を受ける

平成20年	4月	1日	生涯学習教育センターを設置する
平成21年	4月	1日	生活科学科を生活未来科と学科名を変更する 生活未来科は専攻課程を廃止し、入学定員を100名とする。
平成22年	3月	10日	中華人民共和国西安外国語大学高職部との連携・協力に関する包括協定書締結
平成22年	4月	1日	幼児教育科を地域こども学科と学科名を変更し、入学定員を100名とする 日本語教育別科（定員20名）を設置する
平成23年	3月	31日	7号館 竣工
平成23年	4月	1日	キャリア支援センターを設置する
平成23年	9月		中華人民共和国大連大学との交流に関する協定書締結
平成24年	4月	1日	地域共生センターを設置する（生涯学習教育センターを廃止する）
平成27年	4月	1日	地域・国際連携センターを設置する（地域共生センターを廃止する。） 附属倉敷幼稚園の入園定員を10名増し115名に増加認可を受ける 附属河内長野幼稚園を認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園（利用定員60名） としての認可を受ける
平成28年	3月	31日	専攻科（福祉専攻：定員30名）を廃止する
令和2年	4月	1日	生活未来科入学定員を20名減じ80名とする

4. 歴代理事長、学長及び園長

(1) 理事長

	長谷川 千 鶴	昭和40年	4月	1日	～平成13年	3月	31日
	梶 田 武 俊	平成13年	4月	1日	～平成17年	7月	31日
	丹 羽 雅 子	平成17年	8月	1日	～平成18年	11月	11日
(代行)	生 駒 節 子	平成18年	11月	12日	～平成18年	12月	16日
	奥 村 晶 子	平成18年	12月	17日	～平成25年	7月	31日
(代行)	大 石 正	平成19年	10月	7日	～平成19年	10月	22日
(代行)	馬 越 かよ子	平成25年	8月	1日	～平成25年	8月	10日
	榎 和 子	平成25年	8月	11日	～平成29年	7月	31日
	馬 越 かよ子	平成29年	8月	1日	～（現在に至る）		

(2) 学長

(昭和40年4月から平成13年3月まで奈良佐保女学院短期大学)

	波多腰 ヤ ス	昭和40年	4月	1日	～昭和47年	6月	8日
(代行)	近 末 貢	昭和47年	6月	8日	～昭和48年	7月	31日
	宮 本 富 美	昭和48年	8月	1日	～平成6年	6月	30日
	菅 沼 美 子	平成6年	7月	1日	～平成12年	3月	31日
(代行)	梶 田 武 俊	平成11年	10月	1日	～平成12年	3月	31日
	梶 田 武 俊	平成12年	4月	1日	～平成14年	3月	31日

(平成13年4月から奈良佐保短期大学)

	梶 田 武 俊	平成14年	4月	1日	～平成18年	3月	31日
	大 石 正	平成18年	4月	1日	～平成24年	3月	31日
	馬 越 かよ子	平成24年	4月	1日	～令和3年	3月	31日
	池 内 ますみ	令和3年	4月	1日	～（現在に至る）		

(3) 園長

附属生駒幼稚園

(昭和52年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 生駒佐保幼稚園)

有馬 タツエ 昭和51年 4月 1日～平成 4年 3月31日
藤井 智加子 平成 4年 4月 1日～平成 5年 3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園)

藤井 智加子 平成 5年 4月 1日～平成24年 3月31日
奥畑 栄一 平成24年 4月 1日～平成27年 3月31日
片岡 三和 平成27年 4月 1日～令和 3年 3月31日
福田 幹子 令和 3年 4月 1日～(現在に至る)

認定こども園附属河内長野幼稚園

(昭和49年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 河内長野佐保幼稚園)

村上 尉代 昭和49年 4月 1日～昭和50年 3月31日
今市 良子 昭和50年 4月 1日～平成 5年3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園)

今市 良子 平成 5年 4月 1日～平成14年3月31日
中村 裕子 平成14年 4月 1日～平成27年3月31日

(平成27年4月から認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園)

中村 裕子 平成27年 4月 1日～令和 4年3月31日
川崎 隆史 令和 4年 4月 1日～(現在に至る)

附属倉敷幼稚園

(昭和51年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 倉敷佐保幼稚園)

中村 淑 昭和51年 4月 1日～昭和53年 9月14日
長坂 淳子 昭和53年 9月15日～昭和61年 8月31日
本田 慧 昭和61年 9月 1日～平成 5年 3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園)

本田 慧 平成 5年 4月 1日～平成 7年 8月31日
竹内 一二美 平成 7年 9月 1日～平成10年 3月31日
本田 慧 平成10年 4月 1日～平成15年 7月31日
橋爪 操 平成15年 8月 1日～(現在に至る)

5. 奈良佐保短期大学名誉教授

菅沼美子 柴利秋 戸口 勉 松井静子 梶田武俊 南園節教
大石 正 矢和多多姫子 中村妙子 馬越かよ子 宮川久美

6. 運営・組織機構 (主たる業務・分掌を含む)

(別記 68頁)

7. 役員

(令和4年5月1日現在)

理事長 馬越 かよ子
理事 池内 ますみ 勝田 麻津子 倉田 清 栗岡 隆顕 島村 知歩
野口 哲子 疋田 洋子 平井 タカネ 本田 元子 馬越 かよ子
松尾 欣枝 森 永夕美

監事	久米健次	山川明子			
評議員	池内ますみ	岡田伸子	勝田麻津子	川崎和子	川崎隆史
	北口照美	倉田清	栗岡隆顕	久留島涼子	西藤栄子
	島村知歩	高橋世知子	柘植美紀子	野口哲子	橋爪操
	疋田洋子	平井タカネ	福田幹子	福田満代	本田元子
	馬越かよ子	松尾欣枝	宮城智子	森永夕美	森本伊津子

8. 理事会、評議員会の開催状況

(1) 理事会

開催日	審議事項
(令和3年度)	
令和3年4月1日	理事長の選任について
令和3年6月19日	令和2年度(2020年度)事業実績報告について 令和2年度(2020年度)決算について 奈良佐保短期大学名誉教授称号授与について 理事・監事並びに評議員候補者の選任について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園(増築棟)外壁改修工事について
令和3年7月17日	理事、監事並びに評議員の選任について 理事長の選任について
令和3年9月19日	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園長選考について 学校法人佐保会学園経営改善計画策定について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 学校法人佐保会学園組織規程の一部改正について 奈良佐保短期大学「ガバナンス・コード」の策定について 奈良佐保短期大学公的研究費管理等規程の一部改正について
令和3年12月18日	奈良佐保短期大学学則の一部改正について 奈良佐保短期大学奨学生規程の一部改正について 奈良佐保短期大学授業料特別免除規程の一部改正について 奈良佐保短期大学外国人留学生授業料等減免規程の一部改正について 認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園長候補者の選考について
令和4年3月2日	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園複合遊具の購入について 奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について 学校法人佐保会学園所有地の一部売買について 令和3年度補正予算について 奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る処遇改善臨時特例事業賃金改善の支給について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園に係る「処遇改善等加算Ⅱ」の支給について 奈良佐保短期大学教員人事について
令和4年3月19日	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園則の一部改正について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園運営規程の一部改正について 奈良佐保短期大学ネットワーク機器購入について 認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園複合遊具購入について 令和4年度事業計画について 令和4年度当初予算について

評議員の交代について

(令和4年度)

令和4年5月28日	令和3年度(2021年度)事業実績報告について 令和3年度(2021年度)決算について 奈良佐保短期大学教員人事について 奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園園児用トイレ及び洗面所の改修工事について
令和4年7月23日	学校法人佐保会学園所有土地の売却について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園トイレ等改修工事について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園新園舎木製サッシ改修工事について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について
令和4年9月17日	学校法人佐保会学園所有土地の売却について 奈良佐保短期大学ガバナンス・コード遵守状況について
令和4年10月29日	学校法人佐保会学園所有土地の売却について 奈良佐保短期大学校舎の耐震化完了計画について
令和4年12月17日	奈良佐保短期大学教員人事について 奈良佐保短期大学学長等就業規則の制定について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 奈良佐保短期大学附属幼稚園に係る処遇改善等加算Ⅲの支給について 奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について
令和5年2月25日	令和6年度 奈良佐保短期大学地域こども学科入学定員の変更について 令和6年度 奈良佐保短期大学日本語教育別科の募集見合わせについて 令和4年度補正収支予算について 奈良佐保短期大学教員人事について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園則の一部改正について 奈良佐保短期大学クラウドサーバーの導入について
令和5年3月19日	令和5年度事業計画について 令和5年度当初予算について 学校法人佐保会学園中長期計画について 理事及び評議員の交代について 奈良佐保短期大学教員人事について 奈良佐保短期大学社会福祉士養成施設の廃止について

(2) 評議員会

開催日	諮問事項
(令和3年度)	
令和3年6月19日	令和2年度(2020年度)事業実績報告について 令和2年度(2020年度)決算について 理事・監事並びに評議員候補者の選任について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園(増築棟)外壁改修工事について
令和3年7月17日	理事・監事及び評議員の選任について 認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園長選考について
令和3年12月18日	奈良佐保短期大学学則の一部改正について

	奈良佐保短期大学奨学生規程の一部改正について
	奈良佐保短期大学授業料特別免除規程の一部改正について
	奈良佐保短期大学外国人留学生授業料等減免規程の一部改正について
	奈良佐保短期大学ガバナンス・コード及び学校法人佐保会学園経営改善計画について
	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園複合遊具の購入について
	奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について
令和4年3月2日	学校法人佐保会学園所有地の一部売買について
	令和3年度補正予算について
	奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る処遇改善臨時特例事業賃金改善の支給について
令和4年3月19日	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園に係る「処遇改善等加算Ⅱ」の支給について
	令和4年度事業計画について
	令和4年度当初予算について
	評議員の交代について
(令和4年度)	
令和4年5月28日	令和3年度(2021年度)事業実績報告について
	令和3年度(2021年度)決算について
令和4年7月23日	奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園園児用トイレ及び洗面所の改修工事について
	学校法人佐保会学園所有土地の売却について
	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園トイレ等改修工事について
令和4年9月17日	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園新園舎木製サッシ改修工事について
	学校法人佐保会学園所有土地の売却について
令和4年10月29日	奈良佐保短期大学ガバナンス・コード遵守状況について
	学校法人佐保会学園所有土地の売却について
令和4年12月17日	奈良佐保短期大学校舎の耐震化完了計画について
	奈良佐保短期大学学長等就業規則の制定について
	奈良佐保短期大学学則の一部改正について
	奈良佐保短期大学附属幼稚園に係る処遇改善等加算Ⅲの支給について
令和5年2月25日	奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について
	令和6年度奈良佐保短期大学地域こども学科入学定員の変更について
	令和6年度奈良佐保短期大学日本語教育別科の募集見合わせについて
	令和4年度補正収支予算について
	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園則の一部改正について
令和5年3月19日	奈良佐保短期大学クラウドサーバーの導入について
	令和5年度事業計画について
	令和5年度当初予算について
	学校法人佐保会学園中長期計画について
	理事及び評議員の交代について
	奈良佐保短期大学社会福祉士養成施設の廃止について

9. 役職員

(令和4年5月1日現在)

(1) 法人本部

理事長	馬 越 かよ子
法人本部長	倉 田 清
事務室長	倉 田 清

(2) 奈良佐保短期大学

学 長	池 内 ますみ
副学長	森 永 夕 美
副学長	黒 川 丈 朗
生活未来科長	島 村 知 歩
生活福祉コース長	武 田 千 幸
食物栄養コース長	飯 田 晃 朝
ビジネス・キャリアコース長	吉 村 司
地域こども学科長	勝 田 麻津子
こども保育コース長	吉 田 直 子
こども教育コース長	大 石 祥 寛
日本語教育別科長 (併)	武 田 千 幸
事 務 局 長	倉 田 清
総 務 部 長	藤 本 友 宏
教育支援センター長 (併)	黒 川 丈 朗
副センター長	江 本 友 規 子
副センター長	菅 田 知 栄
入試・広報センター長	今 西 一 盛
副センター長	杉 原 麻 起
学生・キャリア支援センター長	上 田 利 博
副センター長	高 屋 有 加
附属図書館長(併)	森 永 夕 美
情報メディアセンター長	川 崎 敬 二
I R推進室長 (併)	大 石 祥 寛
地域・国際連携センター長 (併)	杉 原 麻 起
副センター長 (併)	今 西 一 盛
自己点検評価室長 (併)	中 田 奈 月
副室長 (併)	樹 下 堅

(3) 附属幼稚園

生駒幼稚園長	福 田 幹 子
主 任	貞 佳 子
副主任	赤 枝 幸 恵
認定こども園河内長野幼稚園長	川 崎 隆 史
副園長	中 野 朝 美
倉敷幼稚園長	橋 爪 操
主 任	山 地 麻 美

10. 職員数

・教員等の現員

(各年5月1日現在) 単位：人

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	備 考
短期大学	47 (50)	44 (50)	49 (49)	47 (43)	43 (45)	
学長	1	1	1	1	1	
副学長	1	1	1	1	1	
教授	10	12	10	9	8	
准教授	2	1	4	4	6	
講師	11	9	12	10	7	
助教・助手	3	4	4	4	3	
その他の職員	19	16	17	18	17	
幼稚園	31 (6)	31 (9)	34 (10)	35 (10)	34 (11)	
生駒幼稚園	15 (1)	15 (3)	15 (4)	16 (4)	15 (5)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	13 (1)	13 (3)	13 (4)	14 (4)	13 (5)	
その他の職員	1	1	1	1	1	
河内長野幼稚園	9 (2)	9 (3)	9 (3)	9 (3)	10 (2)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	8 (2)	8 (3)	8 (3)	8 (3)	9 (2)	
その他の職員	0	0	0	0	0	
倉敷幼稚園	7 (3)	7 (3)	10 (3)	10 (3)	9 (4)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	5 (3)	5 (3)	7 (3)	7 (3)	6 (4)	
その他の職員	1	1	2	2	2	

注：()内は非常勤を示す

11. 附属図書館

(1) 図書及び雑誌

(令和4年度末現在)

内国書	外国書	計	備 考
56,012冊	1,543冊	57,555冊	

(2) サービス状況

入館者数・貸し出し者数・冊数

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入館者数	15,091人	15,816人	10,351人	12,486人	14,312人
貸し出し者数	1,673人	1,689人	1,477人	1,427人	1,362人
貸し出し冊数	4,871冊	4,804冊	4,323冊	4,228冊	3,589冊

文献複写件数

学内・学外からの受付件数

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学内からの受付	72件	292件	83件	70件	36件
学外からの受付	0件	1件	2件	4件	1件
外部へ依頼	10件	7件	4件	12件	16件

図書館間相互貸借

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
貸 出	0件	1件	2件	0件	2件
借 受	1件	3件	2件	1件	0件

12. 外部資金

科学研究費補助金

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
基盤研究	— 件	— 件	1件	— 件	— 件
(C)	— 円	— 円	1,700,000円	— 円	— 円
若手研究	— 件	1件	1件	— 件	— 件
(B)	— 円	800,000円	900,000円	— 円	— 円

II 財務の概要

1. 監事の監査状況と監査内容

令和3年度決算分

財産状況の監査（決算・期中監査）

実施日 令和4年5月20日（決算・期中）

対象分野・事項

（決算関係：収支決算書に基づき元帳、証拠書類を閲覧突合しながら監査を行う）

（期中関係：学生納付金等収入金関係及び人件費関係の支出、施設関係の土地及び建物関係の監査を行う）

監査結果（指摘事項なし）

公認会計士との連携の状況

実施日 令和4年5月20日

（互いに監査結果を照合し、意見交換を行う）

結 果 財産状況、理事の業務執行状況についての理事への意見具申 なし

令和4年度決算分

財産状況の監査（決算・期中監査）

実施日 令和5年5月19日（決算・期中）

対象分野・事項

（決算関係：収支決算書に基づき元帳、証拠書類を閲覧突合しながら監査を行う）

（期中関係：学生納付金等収入金関係及び人件費関係の支出、施設関係の土地及び建物関係の監査を行う）

監査結果（指摘事項なし）

公認会計士との連携の状況

実施日 令和5年5月19日

（互いに監査結果を照合し、意見交換を行う）

結 果 財産状況、理事の業務執行状況についての理事への意見具申 なし

2. 公認会計士の監査状況

3 年	2月15日・16日	期中監査（幼稚園監査を含む）
”	4月5日	期末監査及び現金・預金証書等実査
”	5月19日～21日	決算監査
”	6月3日・4日	決算監査
”	9月2日・3日	監査計画・期中監査
”	12月13日・14日	期中監査
4 年	2月24日・25日	期中監査（幼稚園監査を含む）
”	4月7日	期末監査及び現金・預金証書等実査
”	5月18日～20日	決算監査
”	5月26日・27日	決算監査
”	9月5日・6日	監査計画・期中監査
”	12月1日・2日	期中監査
5 年	2月21日・22日	期中監査（幼稚園監査を含む）
”	4月5日	期末監査及び現金・預金証書等実査
”	5月17日～19日	決算監査
”	5月25日・26日	決算監査

3. 貸借対照表の要約

資産の部

単位円

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
固定資産	2,092,706,486	2,037,561,889	2,002,491,955	1,782,464,745
有形固定資産	1,887,966,378	1,832,813,381	1,797,743,447	1,677,716,237
その他の固定資産	204,740,108	204,748,508	204,748,508	4,748,508
流動資産	1,095,428,631	1,084,104,029	1,023,640,113	1,113,476,153
資産の部合計	3,188,135,117	3,121,665,918	3,026,132,068	2,895,940,898

4. 財産目録の要約

単位円

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
資産総額	3,188,135,117	3,121,665,918	3,026,132,068	2,895,940,898
基本財産	2,092,706,486	2,037,561,889	2,002,491,955	1,782,464,745
運用財産	1,095,428,631	1,084,104,029	1,023,640,113	1,113,476,153
負債総額	320,212,590	305,948,625	271,245,623	248,374,313
正味財産	2,867,922,527	2,815,717,293	2,754,886,445	2,647,566,585
資産				
基本財産				
(イ)土地	917,362,439	917,362,439	917,329,677	834,383,143
(ロ)建物	761,091,028	714,000,152	681,703,073	653,360,851
建物	658,090,188	624,172,372	594,380,915	565,135,425
建物付属設備	90,589,487	78,403,277	70,731,098	67,019,608
構築物	12,411,353	11,424,503	16,591,060	21,205,818
(ハ)図書	168,194,444	165,237,407	160,497,281	158,475,386
(ニ)教具、校具、備品 及び標本	41,299,666	35,159,431	37,407,456	30,938,883
(ホ)その他の固定資産	204,740,108	204,748,508	204,748,508	104,748,508
運用資産				
(イ)預金、現金	1,048,365,400	978,237,897	915,798,551	1,030,970,075
預金	1,047,490,549	977,418,398	915,088,138	1,030,186,815
現金	874,851	819,499	710,413	783,260
(ロ)積立金	0	0	0	0
(ハ)不動産	0	0	0	0
(ニ)貯蔵品	0	0	0	0
(ホ)未収入金	45,786,200	93,887,729	107,698,301	80,740,317
(ハ)前払金	1,277,031	11,978,403	143,261	1,765,761
負債				
固定負債				
(イ)退職引当金	184,491,596	177,316,346	173,110,160	166,985,871
(ロ)長期未払金	20,030,036	13,177,316	6,324,596	1,317,380
流動負債	115,690,958	115,454,963	91,810,867	80,071,062
(イ)未払金	32,142,561	26,791,852	24,395,343	24,259,786
(ロ)前受金	67,477,000	66,995,000	53,249,000	43,614,000
(ハ)預り金	16,071,397	21,668,111	14,166,524	12,197,276

5. 資金収支・事業活動収支決算の要約

(1) 資金収支決算

収入の部

単位円

科 目	元年度決算額	2年度決算額	3年度決算額	4年度決算額
学生生徒等納付金収入	289,826,547	284,279,724	240,575,386	211,291,499
手数料収入	3,118,500	2,608,900	4,694,700	3,756,500
寄付金収入	3,740,010	3,391,270	5,030,000	4,392,800
補助金収入	204,915,030	289,083,108	332,747,756	320,074,416
資産運用収入	1,246,846	1,754,648	1,669,756	1,064,555
資産売却収入	0	0	2,123,350	143,000,000
事業収入	89,733,153	90,272,414	91,963,701	98,399,045
雑収入	30,849,716	40,953,141	30,345,991	14,345,691
前受金収入	67,477,000	66,995,000	53,249,000	43,614,000
その他の収入	263,368,367	226,432,093	258,102,894	273,663,178
資金収入調整勘定	△109,583,200	△161,364,729	△174,693,301	△133,989,317
前年度繰越支払資金	1,066,907,275	1,048,365,400	978,237,897	915,798,551
収入の部合計	1,911,599,244	1,892,770,969	1,824,047,130	1,895,410,918

支出の部

単位円

科 目	元年度決算額	2年度決算額	3年度決算額	4年度決算額
人件費支出	455,855,971	488,985,007	467,485,112	451,043,775
教育研究経費支出	114,690,557	141,990,844	161,150,588	134,989,852
管理経費支出	68,225,070	71,459,370	80,936,702	78,351,189
施設関係支出	12,563,382	4,078,450	15,815,270	19,293,630
設備関係支出	17,473,326	10,065,421	13,730,068	6,062,999
資産運用支出	0	0	0	0
その他の支出	234,572,682	219,170,143	198,651,865	194,095,229
資金支出調整勘定	△40,147,144	△21,216,163	△29,521,026	△19,395,831
次年度繰越支払資金	1,048,365,400	978,237,897	915,798,551	1,030,970,075
支出の部合計	1,911,599,244	1,892,770,969	1,824,047,130	1,895,410,918

(2) 事業活動収支決算

単位円

区 分	科 目	4年度決算額	
教育活動収支	事業活動 収入の部	学生生徒等納付金	211,291,499
		手数料	3,756,500
		寄付金	1,042,800
		経常費等補助金	318,196,416
		付随事業収入	98,399,045
		雑収入	16,491,980
		教育活動収入計	649,178,240
	事業活動 支出の部	人件費	447,065,775
		教育研究経費	181,929,006
		管理経費	90,153,871
教育活動支出計		719,148,652	
教育活動収支差額		△69,970,412	
教育活動外収支	事業活動 収入の部	受取利息・配当金	1,064,555
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	1,064,555
	教育活動外収支差額		1,064,555
経常収支差額		△68,905,857	
特別収支	事業活動 収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	5,228,000
		特別収入計	5,228,000
	事業活動 支出の部	資産処分差額	43,642,003
		その他の特別支出	0
		特別支出計	43,642,003
特別収支差額		△38,414,003	
基本金組入前当年度収支差額		△107,319,860	
基本金組入額合計		△21,012,522	
当年度収支差額		△128,332,382	
前年度繰越収支差額		△1,661,446,318	
基本金取崩額		77,721,783	
翌年度繰越収支差額		△1,712,056,917	
事業活動収入計		655,470,795	
事業活動支出計		762,790,655	

(3) 教育研究経費比率

(教育研究経費比率(%))=教育研究経費支出÷帰属収入×100)

学校法人佐保会学園(全体)

単位円

区分	帰属収入合計	教育研究経費支出	教育研究経費比率%
令和元年度	624,261,146	162,130,695	0.259
令和2年度	712,343,205	191,024,794	0.268
令和3年度	709,117,877	207,318,242	0.292
令和4年度	655,470,795	181,929,006	0.278

6. 土地建物

単位㎡

区分	土地	建物延面積	備考
短期大学	34,596	11,145	借地合計：3,505㎡
校舎・講堂・体育施設	12,262	10,729	
屋外運動場	17,812	—	
その他	4,522	416	
附属生駒幼稚園	3,811	1,356	
建物敷地等	2,845	1,356	
屋外運動場等	966	—	
附属河内長野幼稚園	1,824	695	
建物等	1,274	695	
屋外運動場等	550	—	
附属倉敷幼稚園	3,028	574	
建物敷地等	1,389	574	
屋外運動場	1,639	—	
合計	43,259	13,770	

Ⅲ 事業の概要等

1. 奈良佐保短期大学

1. 教育、研究等に関する事業

(1) 生活未来科

(ア) 入学前体験授業

令和4年12月18日(日)に「入学前体験プログラム 第1回入学前体験授業」を実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、合同での体験授業ではなくコース別を実施し、また、オンライン GoogleMeet を使った体験授業を行った。

10月・11月の合格者に対し、QRコード付きの案内状を送付し Google フォームにアクセスしてもらい出欠確認を行った。そして入学予定者(生活福祉コース5名、食物栄養コース15名、ビジネスキャリアコース2名)に向けて GoogleMeet の会議室コードを各コースから配信した。

当日、欠席した入学予定者には、各コースよりオンライン配信した内容をメールにて送付し、同じ学びをもらったうえで振り返りのアンケートフォームに回答してもらった。コロナ禍の不安が個々によって差がある中、オンラインを使用しての実施は参加しやすく、県外居住の学生にとっても欠席を回避できるため意味があると考えられる。

第2回は、令和5年2月5日(日)の成果報告会をオンライン視聴するという形式で行った。入学後の学生生活や学びの内容を具体的にイメージできる効果が高いということが、視聴後のアンケートでわかった。

第3回は、3月27日(月)に入学前説明会として開催した。大学の教育理念はじめ、各コースでの2年間の学びの流れの紹介、また入学後、すぐに履修登録、授業開始となるため、履修計画に必要な情報を提供し、履修登録までに1週間ではあるが、2年後の目標を定め、自分が何を学ぶべきか各々が考えられるように情報提供を行った。(課題)

(イ) 生活未来科成果報告会の実施 継続(平成23年度～)

令和5年2月5日(日)にならまちセンター市民ホールで3年ぶりに対面式で実施した。しかし、新型コロナウイルス感染症の状況が予測できなかったため、一般の方にはオンライン配信(YouTubeの限定公開)で視聴していただく形で参加いただいた。

当日のプログラム

タイムスケジュール	内容
13:00	開会挨拶：池内学長 司会：BCコース1回生 第1部 研修会 テーマ：「共に働き共に生きる」—小さな町の牧童たち— 講師：黒瀬礼子氏 植村牧場(奈良市)
14:30	休憩
14:40	第2部 成果報告会 司会：BCコース1回生 発表：①BCコース発表(8名) ②生活福祉コース発表(19名) ③食物栄養コース発表(27名)
16:10	閉会挨拶：島村教員

オンライン配信をすることで、実習先の指導者、県外学生の保護者、卒業生にも気軽に参加してもらいことができ、学生の学びの全容や成果を知ってもらえたのは良かった。(課題)

(ウ) 「生活と未来」の内容の拡充 継続(令和4年度～)

3コース合同科目「生活と未来」では、学科教員だけでなく、地域包括支援センター等の協力も得て、外部講師を招いての時間も設定した。

6月2日(木) 食と美

講師：ミス・パリ エステティック専門学校の講師 1名

6月16日（木） 認知症サポーター養成講座

講師：鹿野園地域を担当の都南地域包括支援センターの職員、若年性認知症当事者、当事者の方をサポートされている専門職者 3名

栄養、認知症に関する内容は学科カリキュラムの科目でも学ぶ内容ではあるが、学生の関心の高い視点からの説明や実際の話は学生の記憶にも残りやすく、評価も高かった。

(エ) 福祉フェスタの実施 継続（平成28年度～）

令和4年度も新型コロナウイルス感染症防止の観点から一般の方が自由に来校する形のイベントは中止し、令和3年度に好評だった福祉交流会を令和4年11月20日（日）に開催した。

実習や授業等でお世話になっている福祉施設3事業所より利用者と支援者を招き、生活福祉コース1・2回生によるレクリエーション、食物栄養コース1回生によるランチ&スイーツを提供した。各コース、それぞれの特徴を活かした関わりができた。

(オ) 地域連携の強化 継続（令和元年度～）

生活と未来、基礎ゼミナールの授業内での地域におけるフィールドワーク、地域防災避難訓練など大学行事において各コースの特性を活かした地域活動を行った。

<生活福祉コース>

(ア) 学生確保のための広報活動の工夫 継続（平成24年度～）

① 現役の高校生に対して、模擬授業や説明会を実施した。

	行き先	担当教員
9/6（火）	奈良県立添上高等学校	武田
10/28（金）	奈良育英高等学校（2年生）	森永
11/2（水）	奈良育英高等学校（1年生）	武田
12/9（金）	奈良県立奈良国際高等学校	武田
1/18（水）	奈良県立二階堂高等学校	武田
2/6（月）	奈良県立高取国際高等学校	武田

計 6回実施（前年度 6回実施）

② 8月31日（水）に例年実施している奈良県立磯城野高等学校の入浴実習・介護の仕事についての説明を行った。

③ 奈良県社会福祉協議会・奈良県福祉人材センターの委託による「かいご『再就職』応援セミナー」の講師として招かれ（12/20 島村真・2/26 武田）、講座終了後本学の広報活動につながるよう説明を行った。参加者（12/20 6名、2/26 5名）

④ 奈良県社会福祉協議会福祉人材センターと連携し、奈良県内の高校生に向けた養成校紹介のパンフレット作成のため、1回生の学生を2名派遣した。（12/6）

(イ) フィールドについて検討を続け、授業を展開する 継続（令和2年度～）・新規（令和4年度～）

① 令和4年度入学生19名が地域・防災福祉フィールド、介護予防フィールド、障害者福祉フィールドの3つのフィールドに分かれ、研究を進めた。学生の希望を尊重しグループでの研究も認めるところ個人研究8名、グループ研究5班（11名）となった。次年度以降は1フィールドに1名の教員を配置し、より一層の指導の充実を図りたい。

② 地域防災避難訓練や福祉交流会はフィールド毎に分かれて担当した。自身の研究がそのまま生かされた学生ばかりではないが、貴重な体験になった。

(ウ) 国家試験対策とカリキュラムの整理 継続（平成29年度～）

① カリキュラムの検討

新設科目「チームマネジメント」「防災・災害福祉」を後期に実施した。防災センターでの体験学習や、外部講師による講義など、実践的な内容を盛り込んだ授業になった。チームマネジメントでは8組9名

の外部講師によって、現場でのチームマネジメントや多職種連携、職場内外の研修、地域におけるマネジメント等の講義を行った。

② 国家試験対策

- ・中央法規出版の模擬試験を11月3日（木）に実施、2回生15名が受験した。
- ・後期の専門ゼミナール15回、介護総合演習Ⅳ15回中の2回、ほかに授業外で計5コマの国家試験対策講座を行った。
- ・留学生は日本語Ⅳ15回中の大半を国家試験対策にあてた。
- ・専門ゼミナールの Classroom を立ち上げ、計11回に渡り Google form を活用した模擬問題を配信した。学生が解答後、一人ひとりに成績及び必要なコメントを返した。
- ・1月29日（日）に国家試験を15名が受験した（大阪会場：インテックス大阪）。3月2日（金）に合格発表があり14名（日本人学生5名、留学生9名）が合格した。1名（留学生）は不合格の結果となった。また、既卒性4名が受験したが養成校別合格率を確認したところ1名が不合格であった。そのため、奈良佐保短期大学の新卒の合格率が93.3%、既卒生を含む合格率は89.5%であった。

(エ) 介護実習の在り方の検討 継続（平成29年度～）

① 実習運営のあり方

- ・例年実習に際して、専任教員にて実習指導者と事前打ち合わせ・実習巡回指導・実習終了後の面談を行い、学生の実習状況の把握に努めている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実習施設での実習を一部行うことができなかったが、令和4年度はすべての実習を学外実習施設で実施することができた。
- ・すべての実習において、実習前日に学生全員に抗原検査を実施し、陰性を確認した上で実習を開始した。

2回生	介護実習Ⅱ（9日間）	6/6～6/17	学外実習施設
1回生	介護実習Ⅰ①（5日間）	6/6～6/10	
2回生	介護実習Ⅲ（20日間）	8/25～9/23	
1回生	介護実習Ⅰ②（10日間）	8/26～9/12	
1回生	介護実習Ⅱ（20日間）	2/13～3/14	

(オ) 事例研究発表会の実施 継続

- ・介護実習Ⅲに参加していない学生のフィールドでの研究発表の場を設けるため「事例研究発表会」を「卒業研究発表会」と名称変更し12月27日（火）に開催した。「介護現場における実践報告及び事例研究発表会」については新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、中止した。
- ・介護実習Ⅲの実習先施設の指導者へ参加を呼びかけ、5施設3名の指導者が参加した。
- ・生活福祉コース2回生のうち事例研究発表を15名、フィールドでの研究発表を4名が行った。
- ・当日は生活福祉コース学生32名、学長、生活福祉コース教員4名、実習指導者3名、計40名の参加となった。
- ・発表会の様子を GoogleMeet でつなぐことにより学内部署及び教職員の視聴につながった。録画したものを教職員クラスルームにアップし、オンデマンドの対応も行った。発表会を欠席した1回生学生及学生の保証人や留学生のアルバイト先の担当者の視聴もあった。

(カ) 実習施設懇談会の実施 継続（平成29年度～）

実習施設の指導者等を招き実習施設懇談会を例年開催していたが、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できなかった。

(キ) 介護福祉士養成施設協会 奈良県代表校 継続（平成31年度～）

今年度も引き続き奈良県代表校として近畿ブロック会の ZOOM 会議に出席した（4/27・6/14）。また、奈良県内養成校の意見交換会（3校参加）を、ZOOM を活用して行った（12/7）。

<食物栄養コース>

(ア) 栄養士専門科目の学びをより充実させ、栄養士就職に繋げるための授業の改善

「基礎ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅡ」授業内容の充実 継続（平成28年度～）

- ① 「基礎ゼミナールⅡ（1回生後期）」では、前半は、「地域防災避難訓練」に向けて、奈良県栄養士会により大規模災害での栄養士の活動記録の講演や、前期「基礎ゼミナールⅠ」で災害に備えて防災食の試食、段ボールベッド等の組立、防災町歩きなどを行い、その実践を踏まえ、5チームに分かれてブース訓練体験のブース運営の準備を行った。後半は、「栄養指導論実習Ⅰ」や「給食実務論」等で栄養価計算や献立作成など計算力、数的感覚が求められる科目が増えてくるため、専門科目の学びに欠かせない基礎力を強化した。更に、献立作成に欠かせない食材の分量の感覚を掴むための秤量実習や1日の食品目標量を使用した献立の調理を行い、材料から料理に変わった際のイメージ作りなどを体験し、1回生後期の献立作成に繋がるように工夫した。
- ② 「ゼミナールⅡ（2回生通年）」では、令和元年度以降継続している、就職活動、給食管理実習、学外実習等に関する事項について令和4年度についても計画的に取り組んだ。給食会社採用担当者に、働く現場として増えている委託会社に栄養士の働き方など具体的に示してもらい、卒業生からの就活時や就業してからの勤務体験談を話してもらった。学外実習に向けても、授業時間を活用し情報共有しながら準備を進めていけるように工夫した。さらに後期は学外実習の準備に加え、栄養士実力認定試験対策を行い、令和4年度は25名が受験し、A判定18名（72.0%）、B判定6名（24.0%）、C判定1名（4.0%）であった。

【参考：令和3年度は20名が受験し、A判定13名（65.0%）、B判定6名（30.0%）、C判定1名（5.0%）】

(イ) 栄養士+αの力をつけるための授業の取り組み

「ゼミナールⅠ」フィールド制科目における取り組みの見える化 継続（平成28年度～）

- ① 「ゼミナールⅠ（フィールド）」は、前期（2回生）は、各フィールド1回生後期での取り組みを活かし、実践活動に組み込み、イベントでの商品の販売、講座の開催等を実施した。各フィールドで下記の内容に取り組んだ。

医療・福祉フィールド	<ul style="list-style-type: none"> ●病態別の食事・嚥下食の研究と調理 ●第8回アレルギーレシピコンテストに応募 「トロピカルマフィン」
食育フィールド	<ul style="list-style-type: none"> ●奈良市子育て支援センター夢の丘 SAHO の親子を対象にした親子クッキングを5月14日（土）に実施。農園で収穫したさつまいもときな粉のスイートポテト、押し花クッキーと一緒に調理し、手形と写真のリーフレットをレシピと一緒にプレゼントした。
製菓フィールド	<ul style="list-style-type: none"> ●カルローズ米料理コンテストに応募 「抹茶ミルクレープ ～カルローズせんべい添え～」 ●第20回ザ・地産地消 家の光料理コンテストに応募 「大和橘香るマフィン」がスイーツ部門の佳作を受賞 ●8月20日（土）・21日（日）の大和鉄道まつりで学生考案のお菓子の作製、販売。受賞した大和橘香るマフィンやシフォンケーキ、ガトーショコラ、クッキーなどを販売 ●11月6日（日）帯解にぎわい市にむけて、マドレーヌやパウンドケーキなどのお菓子の作製 ●3月20日（月）JAならけん女性大学第7期卒業式にて、「大和橘香るマフィン」の解説を行い、商品とレシピを配付
フードビジネスフィールド	<ul style="list-style-type: none"> ●ザ・地産地消 家の光料理コンテスト・明治ヨーグルトレシピコンテスト・シーフードレシピコンテスト・パイナップルレシピコンテスト・アレルギーレシピコンテスト等に個別で複数応募。アレルギーレシピコンテストで「オートミールで作る簡単ミックスベリータルト」が入選

製菓フィールド&フードビジネスフィールド有志5名	●第4回ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会に応募 近隣住民から提供を受けた文旦と学内農園で栽培された大和橘を使用した「大和橘香る文旦マーマレード」が、学生部門の1位を受賞。代表2名が愛媛県八幡浜市で行われた授賞式に出席。愛媛新聞と奈良新聞に受賞結果が掲載。参加者5名が学長賞を受賞
--------------------------	---

- ② 後期(1回生)は、昨年度同様11月20日(日)の福祉交流会に向けて各フィールドで活動した。医療・福祉フィールドは高齢者・認知症の方の施設、食育フィールドは障害児・障がい者施設、フードビジネスフィールドは障がい者施設のランチ、製菓フィールドは全施設対象のデザートを担当した。それぞれの対象者の特性に応じた料理の内容、形態を考え、食育実践演習で自分たちが栽培した野菜を使用し、材料費を設定し試作を繰り返した。献立を紹介するリーフレットやレシピ等も作成し、喫食者に料理内容を説明した。実施後は、振り返りを行い、フィールド毎に発表し情報共有を行った。後期後半は、各フィールドテーマ設定を行い、2回生の前期に向けての活動計画立案や準備等を行った。

(ウ) 地域連携の強化 継続(平成29年度～)

① ゼミナール等を活用した地域活動

- ・奈良市子育て支援センター親子を対象とし食育クッキングを5月14日(土)に実施。詳細は食育フィールドの活動を参照。
- ・10月1日(土)実施の本学主催の地域防災避難訓練は1回生が中心となり、5グループに分かれて炊き出し訓練と体育館内の体験ブースで、段ボールベッド、段ボールトイレ・イスの組立コーナー、新聞紙等の活用コーナー、防災食紹介・活用コーナー、地域調査発表コーナーを担当した。また、2回生の有志2名が奈良県栄養士会による防災食のバッククッキングコーナーを担当した。
- ・8月20日(土)・21日(日)の大和鉄道まつりでの学生考案のお菓子の作製、販売。JAザ・地産地消家の光料理コンテスト受賞した大和橘香るマフィンやシフォンケーキ、ガトーショコラ、クッキーや、学内農園で学生が栽培した野菜などを販売。
- ・11月6日(日)の帯解にぎわい市で、加工実習で調理し包装したリンゴジャムとイチゴジャムや製菓フィールド学生により作製されたお菓子などを販売。食物栄養コース所属の交換留学生が販売を担当し、地域住民やお客様との交流を深めた。

② その他

- ・2月17日(金)に紀平教員がアール薬局 郡山店で「骨粗鬆症・無料講座」の講師を担当。有限会社アールより依頼を受けたもので、参加者は10名だった。
- ・2月19日(日)開催の公開講座「冬野菜とだしを味わう(親子クッキング)」を島村教員が担当。子ども4名大人3名3組が参加し、農園で栽培した冬野菜を使用した里芋ご飯、けんちん汁、カブの和え物等を調理し、試食した。

(エ) 学生確保のための取り組みー魅力ある食物栄養コースの発信ー

① オープンキャンパス

オープンキャンパスでは、食の体験の実施を再開。体験授業「生活と未来」では、食物栄養コース担当では防災食づくり、蒸しパン作り、奈良の苺を使用したイチゴ大福作りなどを再開した。演習を通して、教員とのコミュニケーションを自然に繰り返すことができ、また、今年度は学生スタッフの参加を再開、教員と学生の関係をPRできた。食育体験コーナー「職の扉」を選択プログラムとして作り、クイズや豆掴み、カラフル白玉団子(野菜ペーストを使用した団子)の試食などを実施したが、オープンキャンパスの実施時間が短く、他のプログラムとも重複していたため、参加人数が少なかった。

③ 体験授業(出張講義)

- 8月31日(水) 奈良県立磯城野高等学校 3年生ヒューマンライフ科の入浴体験実習の際に介護食についての講義を実施(島村)
- 2月15日(水) 奈良文化高等学校 2年生食文化コース1クラス実施 「奈良の食を味わう」調理実習(島村)

③ 進路ガイダンス（体験授業）

9/7 香芝高校 2 年生（紀平）、11/17 西和清陵高校 2 年（紀平）1/18 高取国際高校 1 年（飯田）、
1/23 榛生昇陽 2 年生（紀平）、1/27 五條高校 2 年生（島村）、1/25 奈良商業高校 2 年生（飯田）、
2/8 奈良商工高校 2 年生（紀平）、2/14 御所実業 1 年（紀平）、2/15 奈良文化高校 2 年生（島村）、
2/15 伊賀白鳳高校 1 年生（紀平）、3/14 上野高校 2 年生（紀平）

(オ) その他

今年度は例年お世話になっている学外実習先によってはコロナ禍が収束してきたこともあり、受け入れ条件や内容が例年に戻りつつあった。更に、一部遠隔による講義形式で学内実習とも併せて実施した。また、実習日初日の当日朝に実習予定施設でコロナ感染が判明したため、給食委託会社の協力により急遽実習施設の変更などの調整と手続き等を行った。

<ビジネスキャリアコース>

(ア) インターンシップと他科目、講師、企業・団体・大学等との連携強化 継続（令和 4 年度～）

「インターンシップ I・II」においては、なら歴史芸術文化村(福原氏)、株式会社いち屋(市川氏)と強力なタッグを組むことで企業・団体との連携強化を図った。事前講義では学生によるマーケティング分析、仮説立案、インタビュー・シートの作成・ヒアリング等を実施した。現場実習では「予想通り」「発見・気づき」及び「想定外」の経験、また事後講義では最終実習日の現場で「まとめとふりかえりミーティング」を行い、その後の報告会に向けて成果発表プレゼンテーションを実施し、学生主体で「チーム協働」「ディスカッション」「自らが立てた仮説検証」を経て、インターンシップ先へのフィードバック（「ご提案」）と感謝を行い、同時に学内外の講師、関係各位や教職員に共有した。

これは、BC のプロジェクト型インターンシップがある種 PDCA ルーティンの「パッケージ化」「システム化」を実現して来ており、アクティブラーニング、とりわけ PBL のシステムティックかつアカデミックなアプローチと日常的に受入れ先企業との継続的な人的繋がりや授業・イベントの協働をベースに生み出された高信頼性下のプロジェクト運営が両立し始めたとも言える。

なお、「インターンシップ I・II」ともお客様から学生に対する評価は最大級のものであり、事前分析の丁寧さ、現場での真摯な仕事ぶり、そして仮説検証と提案・提言の的確さとプレゼンテーション技能にも高評価を得ている。

もはや BC のインターンシップは「PBL プラットフォーム」化の第一段階を終えたとも言えるかもしれない。さらに「基礎ゼミナール」をベースとした、イベントの企画実施実習においては、奈良市議会市会議員各位との協働による議会体験会に始まり、夏の「大和鉄道まつり」においては 8,000 名を超える参加者に対して地域こども学科によるリズム体操の実演・子供たちとの交流、食物栄養コースによる本学農園栽培野菜・焼き菓子の作成・販売、ビジネスキャリアコースにおける司会進行や子供向けワークショップの開催など、奈良佐保短期大学の多彩なコンテンツとコース・アイデンティティを PR する場となった。加えて 11 月の商業施設ミ・ナラーでの祭事イベントにおいては、学生自らが企画提案し、食物栄養コースのクッキー物販や BC オリジナルのワークショップを行った。また「ビジネス実践演習 II」においては市川氏の紹介で行政、一般業など多彩な外部講師によるビジネス実務の赤裸々な現状を学び、さらに「キャリアデザイン」においても株式会社高木包装の社長、社員各位の会社方針やプロモーション、人事政策までの講義を受け「自分の一番好きなことを仕事にする」など心に響くメッセージが学生各位へ送られた。

このように、コース全体として年間を通じてシームレスに産官学連携は活発かつ継続的に進み、それぞれにおいて「事前講義→実習・授業→ふりかえり・事後講義→学内外シェア」が毎回繰り返され、学生各位のビジネス実務に対する最大限の気づきと経験となったことに加えて、BC らしい外部連携、インスパイアが随所で起こった 1 年であった。引き続き、パワーアップして継続したい。

(イ) カリキュラムの抜本的体系化 2.0 新規（令和 4 年度～）

昨年度に行ったコース内独自でのディプロマ・ポリシー等の改訂検討は教学委員会のオフィシャル・ジャッジメントを経て昨年度一旦の完成となった。また、教育理念→カリキュラム→キャリアパスの体系化につ

いても昨年度に加えてさらに、ビジネス実務、経営デザイン・フィールドを中心に科目名の刷新による漸新性訴求やイノベーション科目の追加により、ビジネス発想の更なる精鋭化を目指し2年連続のカリキュラム改訂に着手・完了した。

また懸案であった医療事務関連の資格対策講座の過重開講及びそれに伴う特に夏期集中講座の学生のカリキュラム過負荷について、早期に学生の資格試験受験予定調査や非常勤講師各位へ現状の深刻度の説明・お願いを重ね、昨年度5科目75回あった試験対策等講座を約9割削減し概算ベースで約75万円、非常勤講師人員換算ベースで約5名相当の削減を実施した。また献本制度も全面撤廃し可能な限りの予算削減を実施した。さらに令和4年度入学生の純増約6名及びインターンシップ実習費の徴収開始等すべてのコスト削減及び増収要因を単純合算すると単年度で昨年比約800万円程度の増収と推定される。なお、2回生の医療事務関連就職希望者は入学時に8名、最終的に1名のみであったが、意中の企業より内定を獲得しており、医療事務関連の整理業務はコスト削減と志望者に寄り添った両建ての視点で調整を重ね、本年度は無事完了した。

(ウ) ビジネスキャリアコースに志願する高等学校と幅広い関係づくりにより、入学者数増加をめざす

継続（平成29年度～）

本年度の入学者は2名であり、想定を大きく下回った。大きな原因と想定されるのは、奈良県立高校の合従連衡方針及び実績校にて専門学校進学者が異常に増加したことである。これは、普通科成績中位～上位者は県立上位校に集められ、4年生難関大学を目指す。また、かつての本学及び本コースのターゲットであった成績中位～下位の普通科希望者に対し、高校合併によるコース専門化が進み、IT、農業、工業に加えて、ごく一部のビジネス系特色学科の新設が相次ぎ、いわゆる「手に職をつける専門教育」に大きく舵をとり、我々の既存ターゲット生が別の進路誘導される要因と推測した。この第一報は入試・広報センターから得られ、全学的に指定校、連携校の中で昨年までの採用実績校が、本年度は応募ゼロと言うケースが続出しているとも聞いた。

この情報をもとに当コースの入学実績校にてヒアリングを行ったところ、奈良県立二階堂高等学校は3年生154名の生徒のうち約90名(約60%)が専門学校へ進学志望したが昨年末の親子三者面談時に、その進路決定を生徒自身が逡巡、違和感を表明する事態が複数者となり、進路指導担当者が大変困惑していると聞いた。さらに通信制で指定校の大和中央高等学校においても同様な傾向が顕著であり、3年生100名のうち、就職約50名、進学22名に対して専門学校は30名を超える結果となった。ちなみに短大進学者は1名のみで、平成22年以来、本学各コースにコンスタントに入学者を送り込んでいただいたが、今年度はこの1名となった。この事実は前述の情報とかなり一致する。専門学校進学理由として「一般教養科目の履修が負担、不要」とのことで、これまでもあった理由かもしれないが、これだけ世界的競争力が低下している日本において、かつ刻々と激変するマーケットや世界情勢において、単一の専門性だけを持つ社会人が増えると、一概には言えないが、多様多彩な発想者が減少し、イノベーションが起こらず、仕事に対するモチベーションも停滞し、もし現在の専門性が陳腐化した時はキャリア・チェンジがたいへん困難になると予測される。たいへんゆゆしき状況であると思われる。故に短期大学BCにて、社会で、ビジネス・シーンで、自律して仕事ができるよう、目の回るような多忙な2年間であるが充実した2年間とし、早く社会に出て自分自身が納得し着実に歩んでほしい。

(2) 地域こども学科

(ア) 免許資格取得に向けた教育の充実への取り組み 継続（平成23年度～）

卒業生57名中、幼稚園教諭二種免許状取得者51名、保育士資格取得者48名、小学校教諭二種免許状取得者7名である。資格取得率は、幼稚園教諭二種免許状89.5%、保育士資格84.2%、小学校教諭二種免許状（こども教育コース）100%である。

(イ) 初年次教育・基礎教育の充実への取り組み 継続（平成23年度～）

1回生「基礎ゼミナールⅠ」（前期）「基礎ゼミナールⅡ」（後期）、「キャリアデザイン」授業をとおして、大学生の学びの基礎となるノートテイキング並びにプレゼンテーションスキルの向上、保育者・教育者を目指すキャリアプランニングにつながる学習に取り組んだ。学生全員が3施設へ見学訪問を体験し、現職者が

らの講義を受けた。また、全員がプレゼンテーションを行う一方で SPI 学習にも取り組んだ。

(ウ) 就業力の育成について 継続 (平成23年度～)

総合演習の授業をとおして採用試験対策に取り組んだ。令和4年度は、現役学生3名が小学校教員採用試験に合格できた。公立の幼保採用試験を希望する学生7名へ、受験する市町村に対応した受験対策指導にあたり、全受験者は7名中合格者は5名であった。学科全教員が「総合演習」授業時間のみならず、一人一人の学生への個別指導にあたり、小学校教員採用試験の合格率は100%、公立幼保採用試験は71.4%と、過去最高の結果となった。また、「キャリアデザイン」授業では「社会人マナー講座」を令和4年度も実施し、実践的な基礎マナーの修得につなげた。

(エ) 地域貢献事業の実施について 継続 (平成22年度～)

地域貢献事業としては、令和4年度は高校・幼稚園・保育所等への出張講義、本学で実施されたオープンキャンパス開催日に「ゆめの丘 SAHO」(地域子育て支援センター)との共同主催で実施した「あそびのひろば」全8回を実施した。また、オープンキャンパスでは全開催会においてピアノ無料講習会を実施した。学科の特色ある活動「ゼミナール」では、「表現遊び」ゼミナール(フィールド)が子ども園へオペレッタの出前公演を実施した。「幼児体育」ゼミナールでは、10月と12月の2回、本学に奈良佐保短期大学附属幼稚園を招いて体育館で55名の園児と学生が運動遊びの実践を展開した。さらに、学科「ゼミナール」活動の協同取り組みとして、第2回「あそびのひろば」を実施し、予約制で地域の親子を午前・午後と50組の親子を招いた。子育て支援活動の一環としての「あそびのひろば」は盛況に終え、また学生の実践力修得の場となった。

(オ) 成果発表会について 継続 (平成22年度～)

学生のゼミナールでの学びの集大成として「成果発表会」を実施した。各ゼミナールが成果発表会を学内で実施し、学生間相互で学びあう取り組みとなった。もう一つの実践成果の取り組みとして、「教職実践演習」授業の総仕上げとして、教育者・保育者を目指す上で、学生一人一人が課題「テーマ」を決めた「実践活動報告」を実施した。2回生が全員発表者となり、学内において分科会形式で3会場に分かれて実施し、学内全体に報告会参加案内を告知した。併せて、各自の発表内容についての抄録を「実践活動報告書」として作成し、学習成果のまとめとした。

(カ) 入学前学習支援 継続 (平成23年度～)

① 入学前研修会の実施

大学生活がスムーズにスタートが切れるように、令和2年度より3回にわたって入学前研修を実施した。令和4年度も3月に3回にわたって実施した。

主な研修内容

- a 大学の教育方針並びに地域こども学科の特色等
- b 教育内容及び取得できる免許・資格
- c 各実習に関すること
- d 授業内容についての事前準備 (Chromebook 設定)

第1回目は保護者参加として、全3回とも無断欠席はなく概ね100%の参加率であった。

② ピアノ入学前講習会

ピアノ実技に対する不安を解消すること、ピアノ実技科目となる「器楽演習」履修時におけるピアノ教育の導入をスムーズに実施することを目的に、入学決定者全員を対象に、ピアノの入学前講習会を行った。また、入学決定者全員を対象とし、入学時におけるピアノ実技経験を持たせること、及び音楽教育の充実へとつなげるために実施した。

(キ) 子育て支援センター“ゆめの丘 SAHO”への支援 継続 (平成22年度～)

子育て支援センターにおいて学科所属教員が毎月1日ずつ相談援助を担当した。

(ク) 2回生保証人教育懇談会 継続 (平成22年度～)

PTが保証人及び保護者懇談が必要であると思われる学生について、また資格取得に課題のある学生及び

GPAが2以下の学生8名については三者面談を実施した。個別の懇談に際しては、教員間で事前に学生の課題を共有した上で、PT・実習指導教員・学科長でチームを組んでの複数面談を実施し、学生の進路指導にあたった。

また、今後の学習支援・就職支援については、学生・キャリア支援センター及び障害学生修学支援センターと連携をとりながら進め、学科教員全員で情報共有した。

(ケ) こども教育コースの運営について 継続（平成25年度～）

近隣小学校でのスクールサポートを授業の展開とし、令和4年度も、奈良市立の小学校と調整を重ねた上で、ゼミナールや総合演習の時間に小学校で授業支援をし、その後、スクールサポートの振り返りをするスケジュールを組むことができた。実習以外に小学生への学習サポートの活動を実施することで、児童への関わりを深く考えるきっかけになっただけでなく、こども教育コースの学生の小学校教員採用試験100%合格につながった。

(コ) 「実践活動報告書」（ゼミナール活動）の作成 新規（令和4年度～）

令和4年度は、学生のゼミナールでの学びの集大成「成果発表会」をデータ及び映像で残した。

(サ) 実習施設との教育連携協定を締結 新規（令和4年度～）

実習先施設との教育連携を深めていく連携協定締結書を取り交わして進めてくことを目指したが、コロナ禍での現場と大学との交流が難しく、令和4年度は教育連携協定に至らなかった。

(シ) 学科「ニュースレター」（定期刊行） 新規（令和4年度～）

学科紹介チラシ（A3両面）を1枚作成したが、定期発行には至らなかった。

(3) 日本語教育別科

(ア) 新型コロナウイルス感染症対策の影響により海外からの留学生の入国が困難なため日本語教育別科を開講することができなかった。

(イ) 令和5年度学生募集について、新型コロナウイルス感染症対策の状況が変わらず、先行きが見えない状況であることから令和4年度に引き続き令和5年度の募集も行うことができなかった。加えて、留学生や留学生を支援する施設の留学に対する意識が変わってきていること、円安の状況が続いていること、N3レベルの日本語能力をもった留学生を複数確保することが難しいと考えられること、専任教員の確保に関する課題等を踏まえ、令和6年度の学生募集についても停止することとなった。

(4) 介護職員初任者研修

(ア) 介護職員初任者研修課程の実施 継続（平成25年度～）

① 令和2年度に新型コロナウイルス感染症のため、研修を実施することができなかったことから、2回生を優先して受講できるように学年別に段階的に募集を行った。結果2回生9名、1回生4名の計13名が受講した。（生活未来科生活福祉コース3名、食物栄養コース2名、ビジネスキャリアコース5名、地域こども学科3名）

② 学内での講義・演習を120時間実施した。学外実習は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、実施を取りやめ、その分は学内で講義を行った。

③ 遅刻や欠席のあった科目について、研修担当教員へレポート課題を依頼、学生より課題を回収、教員への提出、学生への返却という一連の流れを行った。生活支援技術の科目については補習を実施した。

④ 受講生のうち体調不良等により3名が途中で研修を辞退することとなり、その結果最終的に10名が研修を修了した。

(イ) 修了評価の実施 継続（平成25年度～）

修了評価（筆記試験）を9月26日（月）に行い、10名が受験、4名が合格した。

不合格の6名について補習を行い、10月8日（土）に再試験を実施し、5名が合格した。その後11月1日（火）に再々試験を実施し、1名が合格した。

(ウ) 受講生の確保（在学生） 継続（平成21年度～）

3月の入学前説明会、4月のオリエンテーションで各学科コースから学生及び保証人に周知し、4月14日(土)に説明会を行った。説明会には多くの学生が参加したが、研修日程や他の集中講義の日程の関係からか受講希望者が少ない結果となった。定員の20名には達さなかった。

(エ) 受講生の確保(卒業生、一般)・受け入れ 継続(平成29年度～)

今までは本学学生以外にも卒業生や一般からの受講生も募るため、ウェブサイトで情報をアップすることと履修証明プログラムの1つとして地域・国際連携センターからも応募を呼びかけていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考え、本学学生のみを受講生を限定することとなった。

(オ) 学内での非常勤講師依頼 継続(平成26年度～)

学内で非常勤講師のコーディネイトを行った。以前より非常勤講師としてお願いしていた5名の先生(介護現場で実際に働いている方々)に依頼した。

(カ) 研修の運営 継続(平成25年度～)

研修日に授業担当者以外に1名の教職員が待機するシステムをとり、出欠管理、資料のコピー、非常勤講師出向日には昼食準備等、事務的な対応を行った。

(キ) 令和4年度の実施報告と令和5年度に向けての準備 継続(平成25年度～)

教育支援センターと連携し、県へ令和4年度の実施報告(11/28)と令和5年度の実施計画の届け出(2/22)を行った。

(ク) 奈良県からのアンケートへの回答 継続(平成28年度～)

令和4年度介護職員初任者研修実施状況調査の提出について県から依頼があったため、教育支援センターと連携し回答した。(12/1)

(5) 研究紀要の刊行

本学教職員の研究成果を発表する機会としての「奈良佐保短期大学研究紀要」第30号の発行

継続(昭和51年度～)

「奈良佐保短期大学研究紀要」第30号を3月31日(金)に250部発行した。研究報告3件に加え、「2022年度研究業績一覧」を掲載し、教職員や非常勤教員に配付し、国立国会図書館や関係法人等の7箇所へ発送した。

2. 入学生の確保に関する事業

<入学試験関係>

(1) 令和5年度入試状況

(ア) 6日間の入試日程で入試を実施した。3月上旬には奈良県職業訓練入校試験を実施し合否判定を行った。今年度は、特別連携校入試及び外国人留学生入試の受験者はいなかった。結果は次のとおりである。

R5.3.15 現在

【受験者数・合格者数等】

入試種別	回数	生活未来科			地域こども学科			計		
		受験者数	合格者数	辞退者数	受験者数	合格者数	辞退者数	受験者数	合格者数	辞退者数
総合型選抜(体験)	1	5	5	1	4	4	0	9	9	1
総合型選抜(面談)	5	2	2	0	3	3	0	5	5	0
学校推薦型選抜(指定校)	1	10	10	0	14	14	0	24	24	0
学校推薦型選抜(公募)	2	0	0	0	2	2	0	2	2	0
一般選抜	2	2	2	0	3	3	2	5	5	2
自主的活動評価入試	3	1	1	0	5	5	0	6	6	0
社会人入試	5	2	2	1	2	2	0	4	4	1
連携校入試	1	3	3	0	6	6	0	9	9	0

特別連携校入試	1				0	0	0	0	0	0
外国人留学生入試	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
奈良県職業訓練※	1	19	12	0	5	5	0	24	17	0
合計		44	37	2	44	44	2	88	81	4
入学予定者数		35			42			77		

※奈良県職業訓練の募集定員は、介護福祉士養成科（7名）、栄養士養成科（12名）、幼稚園教諭・保育士養成科（7名募集）であった。

【入試種別ごとの志願者数の推移】

項目	令和5年度入試	令和4年度入試	令和3年度入試	令和2年度入試	令和元年度入試
総合型選抜(体験)	9	10	14	35	26
総合型選抜(面談)	5	16	6	20	13
学校推薦型選抜(指定校)	24	30	36	19	26
学校推薦型選抜(公募)	2		5	5	4
一般選抜	6	4	3	1	7
自主的活動評価入試	6	7	12	3	6
ファミリー入試					
社会人入試	4	3	3	5	4
連携校入試	9	11	13	12	11
特別連携校入試	0	1	2		
外国人留学生入試	0	1	14	13	4
奈良県職業訓練	25	47	42	27	34
合計	90	130	150	140	135

(イ) 受験生の動向について

受験生の出身高校所在地は、次のとおりである。令和3年度入試以降は奈良県職業訓練含まず

府県名	奈良県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	和歌山県	三重県	その他※	留学生	計
5年度	47	0	3	1	3	3	6	2	0	65
4年度	58	0	14	3	1	1	2	3	1	83
3年度	64	1	14	7	0	2	4	2	14	108
2年度	75	0	20	9	4	1	8	10	13	140
元年度	60	1	14	4	2	4	2	44	4	135

※「その他」には、奈良県職業訓練者数も含む(平成元、2年度分)

(ウ) 入試説明会について

令和4年5月24日(火)に近府県の高等学校進路指導担当教諭を対象とした入試説明会を、622講義室にて開催した。参加校数は、次のとおりである。

府県名	奈良県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	和歌山県	三重県	その他	日本語学校等	計
5年度	20		2							22
4年度	16		1							17
3年度	18		2	1						21
2年度	26		3	1						30
元年度	24		3	1						28

(エ) その他

① 新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策の徹底として、マスク着用、各試験会場アルコール設置、非接触式体温検知を設置し、会場準備段階では各試験会場のアルコール消毒、受験生間を広げた座席指定等を実施した。面接試験では受験生が入れ替わるたびに机・椅子・扉の取っ手等の消毒等を行った。また、ウェブサイトに新型コロナウイルス感染症拡大防止の注意喚起と対応についての文書を掲載した。体調不良者が生じた場合に備え、その対応及び健康状態チェックリストを作成した（大学入学共通テストに準じた）。

学校推薦型選抜（指定校）の受験予定者1名について、在籍校から新型コロナウイルス感染症の影響で受験できなくなった旨連絡を受け、検討・調整の結果、別の日程での受験を認めた。

② 令和5年度入学者選抜の検討

- a 令和4年度と同様に、文部科学省から通知のあった大学入学者選抜実施要領に従い、また昨今の高校生のニーズに対応できるように、10種の選抜試験を6日間の入試日程に組み込み実施した。
- b 面接の採点を簡素化するために、入試種別ごとに作成していた面接要領を一元化した。
- c 入学検定料を見直した。
- d 受験生の自由度を増すために、総合型選抜(面談)のプレゼンテーション試験について、「ポスター・紙芝居」の使用に関する規定を廃止し、「意見発表または絵本の読み聞かせ」に改めた。
- e 受験生の便を図るため、事前面談をオープンキャンパス開催日にも実施した。
- f 本学独自の奨学生制度・優遇制度・支援制度と高等教育修学支援新制度の整合性を図るため、昨年度に規程を見直し、本年度から施行した。

③ 入試事業における必要経費の節減

学生募集要項の印刷業者選定にあたっては、従前に倣い、競争見積合わせにより業者選定を行った。7社に依頼したところ3社から回答があり最安値をつけた2社と契約した。また、従前同様に、データでの入稿を行い、作成経費の削減に努めた。

<広報関係>

(1) 令和4年度 広報活動

(ア) オープンキャンパスについて

本学の魅力を志望者に直接発信できる好機ととらえ、全学体制で取り組んだ。全体会、学科・コース紹介、体験授業、選択型プログラム等のメニューを設定した。特に体験授業については、学科教員が、志望者の興味・関心を刺激する授業内容を工夫し実践した。また、ボランティア学生を募り、運営に参画させた。従前同様に、開催当日はスタッフ全員による打ち合わせ会及び反省会を設定し、事後に結果を実施速報としてまとめ、教職員間で情報や改善点の共有を図った。社会人や一人暮らし予定者等についても対応できる企画を取り入れた。

① オープンキャンパス参加状況(学年別・学生ボランティアスタッフ)

開催日	参加者	高3生既 卒者	高2生以 下	保護者 付添者	計	学生等 スタッフ
4月17日(日)		5	1	1	7	9
5月1日(日) ㉓		1			1	
5月14日(土)		12		2	14	8
6月5日(日)		18	2	8	28	9
6月18日(土) ㉓		4		1	5	
7月9日(土)		16	2	9	27	11
7月17日(日)		13	2	13	28	14

8月 6日 (土)	4	5	8	17	11
8月 21日 (日)	5	11	10	26	9
9月 4日 (日)	13	3	10	26	5
10月 22日 (土) ㊦	1			1	
10月 23日 (日) ㊦	3			3	
11月 6日 (日)	4	2	4	10	7
12月 10日 (土)	4			4	3
1月 28日 (土)	5	3	2	10	3
2月 19日 (日)	13	8	6	27	6
計	121	39	74	234	95

3月 25日分は未掲載

②オープンキャンパス参加状況(学科・コース別)

参加者 開催日	生活 福祉	食物 栄養	ビジネス キャリア	地域 こども	検討中	合計
4月 17日 (日)		3		2	1	6
5月 1日 (日) ㊦	1					1
5月 14日 (土)	2	3		7		12
6月 5日 (日)		9	3	8		20
6月 18日 (土) ㊦				3	1	4
7月 9日 (土)	2	4	2	10	1	19
7月 17日 (日)		3	3	9		15
8月 6日 (土)	2	2	1	4		9
8月 21日 (日)	2	4	1	8	1	16
9月 4日 (日)	1	4		11		16
10月 22日 (土) ㊦		1				1
10月 23日 (日) ㊦	1	1		1		3
11月 6日 (日)		2		3	1	6
12月 10日 (土)		1		2	1	4
1月 28日 (土)		2		6		8
2月 19日 (日)	1	8		11	1	21
計	12	47	10	85	7	161

3月 25日分は未掲載

③大人のオープンキャンパス参加状況

参加者 開催日	社会人	高校生	付添者	計
11月 18日 (金)	1			1
12月 16日 (金)	4			4
1月 20日 (金)	4			4
計	9			9

④オープンキャンパス参加者の推移

	R 4		R 3		R 2		R 元	H30	H29
	定例	ミニ	定例	進学	定例	特設			
4月	6		13				34	25	29
5月	12	1		8			40	31	31
6月	24		59	1	33		57	49	58
7月	33		35	2	33	26	52	57	113
8月	25		30	2	28	10	45	47	37
9月	16		9		15	3	27	23	21
10月		4		1		6	—	—	—
11月	6		6			7	—	—	—
12月	4		8			4	—	—	—
1月	8		13				—	—	—
2月	21		17				28	—	—
計	155	5	190	14	109	56	283	232	289

(イ) 学校訪問・進路説明会等について

高等学校と本学の信頼関係を深め、本学の認知度を高め、本学志願に向けての強い動機づけを目指すとともに、各高等学校の取り組みを見聞きし高校生の実態を知ること、大学教育への円滑な移行と指導の充実を図る一助とするために、奈良県内をはじめ近隣府県の高等学校を訪問し、進路指導担当者等との面談に取り組んだ。進学者等から依頼される模擬授業や分野別説明については各学科教員に依頼し対応したが、学校訪問については入試・広報センター職員を中心に担当した。外国人や社会人への入学案内のために、日本語学校、ハローワーク等への訪問にも取り組んだ。訪問記録はPCシステムで管理し、情報の共有を図った。

①高校訪問実施状況(入試・広報センター職員による広報訪問のみ)

訪問先	校数	回数	1校平均
奈良県 県立高校	32校	113回	3.5回
奈良県 市立高校	3校	8回	2.7回
奈良県 私立高校	13校	41回	3.2回
京都府 高校	10校	24回	2.4回
和歌山県 高校	2校	2回	1.0回
三重県 高校	5校	20回	4.0回
日本語学校	5校	5回	1.0回
ハローワーク	8所	12回	1.5回

2023. 3. 7

②進路説明会参加状況

業者名	件数
エフオール	37
さんぼう	36
ライセンスアカデミー	24
昭栄広報	19
TAP	15
ケーホウ	7

キッズ・コーポレーション	2
ジ・パートナーズ	1
奈良県社会福祉協議会	1
合計	142

2023.2.1

(ウ) 広報用印刷物・グッズについて

印刷物については、例年に倣い、キャンパスガイドをはじめ各種のチラシを作成し、オープンキャンパスや学校訪問時、進路説明会等で配布した。今年度の新たな取り組みとしては、オープンキャンパス案内用の駅貼りポスターや、資料請求者宛て年賀状を作成した。

広報グッズとしては、クリアファイル、ボールペン、キャンパスバッグ、チョコレートハンドタオル、マスクケース及びマスキングテープの在庫を活用していたが、ボールペン（「あなたも2年間でプロになる！／奈良佐保短期大学」の文字入り）を追加発注したほか、キャンパスバッグを一新し、コットン素材のナチュラルな白地に花文字風の筆記体で「Nara Saho College Since 1931」と記した、おしゃれな仕立てのものを作成した。また、オープンキャンパス案内用の横断幕を作成し、護国神社下学生駐車場に掲出した。

その他、従前よりオープンキャンパス時に使用している、学校名入り幟、看板、キャラクター顔出しパネルは、継続使用した。

制作物	個数	製作者等
2023年版キャンパスガイド	8000部	(株) トライアウト
オープンキャンパスチラシ	4000枚	プリントパック
LINE・Instagramチラシ	2000枚	プリントパック
一人暮らしツアーチラシ	200枚	プリントパック
駅貼りB2ポスター(10駅・高校配布)	50枚	プリントパック／(株) トライアウト
秋からの入試広報チラシ	300枚	プリントパック
大人のオープンキャンパスチラシ	100枚	プリントパック
年賀状(資料請求高1生・高2生に送信)	352枚	プリントパック／郵便局
2月・3月オープンキャンパスチラシ	500枚	プリントパック
奈良県実施職業訓練チラシ	3000枚	プリントパック
馬酔木通信42号	3000部	(有) 山田印刷
名入れパイロットボールペン	500本	(株) タカギ
ライトキャンパスバッグ(L)	5000個	(株) トップメール
オープンキャンパス日程横断幕(学生駐車場掲示)	1枚	三岡商事(株)

(エ) 進学情報関係業者等について

進学情報関係業者と契約を結び、進路説明会等の場の提供を受けるとともに、ウェブサイトや進学雑誌等で、本学を案内した。

また、同業者を通じて、志願者からの資料請求を受け付け、学校案内等を送付した。

ウェブサイト・雑誌	進学情報関係業者
ベスト進学ネット	(株) 日東システム開発
J S日本の学校セット	(株) J Sコーポレーション
マイナビ進学ベーシックプラン	(株) マイナビ
マイナビ進学 学びの特色 学部・学科・コース掲載	(株) マイナビ
京阪神エリア 折りたたみMAP	(株) エフオール
2022年度大学・短大まるわかり事典	(株) さんぼう

2023 進路の手引 4月号	(株) 昭栄広報
ポータルサイト「高校生のキモチ」	(株) 昭栄広報
アクセス日本留学 2022 学校基本情報ページ	(株) アクセスネクステージ
大学・短大 進路のてびき (中部・西日本版)	(株) ライセンスアカデミー

資料請求受付業者等	件数	OC参加者数	出願者数
(株) マイナビ	127	3	2
ベスト進学	64	3	4
(株) JSコーポレーション	53	2	
(株) ライセンスアカデミー	128		
(株) さんぼう	7		
本学ウェブサイト	37	15	9
合計 (2022. 2~2023. 12)	416	23	15

(オ) 新聞広告・協賛広告等について

地元新聞社を中心にオープンキャンパスの案内等を告知するとともに、各種団体の活動を協賛することで本学の名前をPRした。また、近鉄奈良駅構内のデジタルサイネージにも本学案内を掲出した。

企画等	関係業者・団体
「未来志向・次世代を育む食育」特集	(株) 奈良新聞社
奈良県版 2022 オープンキャンパス情報	サンケイ広告 (株)
「なら中高生新聞夏号」	(株) 奈良新聞社
オープンキャンパスガイド企画	毎日広告奈良 (株)
「オープンキャンパス情報企画」奈良版・伊賀版	(株) 読売連合広告社
「こども未来応援」協賛広告	(株) 奈良新聞社
「未来志向・次世代を育む食育」特集	(株) 奈良新聞社
奈良新創造時代 2022 第3特集 県内学生インタビュー	(株) 奈良新聞社
「介護の日」特集広告	(株) 奈良新聞社
「奈良マラソン 2022」特集協賛	(株) 奈良新聞社
日本栄養士会HP「学校案内」広告掲載	公益社団法人 日本栄養士会
奈良県定通教育振興会報協賛	奈良県高等学校定時制通信制教育振興会
奈良県家庭クラブ誌協賛	奈良県高等学校家庭クラブ連盟
近鉄奈良駅 電照看板	(株) リード / (株) トライアウト

(カ) ニュースリリースについて

学内外で開催するイベント情報を中心に本学の魅力を伝える情報を、県内報道機関へニュースリリースしたところ、地元新聞に掲載された。また、本学教員がFMラジオで紹介され、学生とともに出演した。

	令和4年度	令和3年度
ニュースリリース	12本	12本
新聞掲載	15回	12回

本年度は、2023. 3. 15 現在

(キ) ウェブサイトでの情報発信について

本学ウェブサイトについては、保守業務を業者に委託しているが、一部更新作業については入試・広報センター職員が取り組んだ。イベントの案内、入試情報、トピックスなどの新着情報の更新に取り組むとともに、学内関係者の新型コロナウイルス感染症罹患状況もウェブサイトを用いて発信した。また、見やすさを

意識し、時宜に応じて、バナーのデザイン・配置の更新に努めた。広報委員会を通じて教職員ブログの更新を呼びかける一方、LINE（平成 28 年 8 月開始）、Instagram（平成 30 年 3 月開始）を使った情報発信にも取り組んだ。

【ウェブページアクセス数等】

令和 4 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
ユーザー	4245	3537	4021	3431	3174	3283	3272	3005	2686	3322	3075	3184
アクセス	8249	6384	6623	6538	5664	5835	5632	5332	4830	5449	4536	4753
令和 3 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
ユーザー	6251	5202	4979	4782	4036	4384	4511	4705	3021	2577	1990	3439
アクセス	10807	10172	9300	8989	7106	8799	8236	8756	6091	5672	3939	5777

2023. 3. 15 現在

【LINE 登録者数】

令和 4 年度	令和 3 年度
73 人	46 人

2023. 3. 2 現在

【Instagram フォロワー数】

令和 4 年度
368 人

2023. 3. 2 現在

(ク) その他

① ポロシャツ・ブルゾンについて

広報ボランティア参加学生や外部イベント参加学生に本学ポロシャツ・ブルズンを貸し出すとともに、教職員に対してポロシャツ購入を斡旋し、本学 PR の一助とした。

② 学科・コースが主催するイベント等への協力について

学科・コースが主催する学内外のイベントにできるだけ参加し、今後の広報活動に役立てるため写真撮影を行い記録するとともに、外部参加者が見込まれるイベントについては大学案内等を配布し、知名度アップに努めた。

③ 個人情報保護について

学生に対して、広報媒体等への写真等の提供・使用についてアンケートを実施し、了承が得られない学生の写真の使用は避けるなど、学生の個人情報保護に関する手続きを履行した。

(2) 広報活動における必要経費の削減

広報グッズについては、在庫分の整理を心がけ、新規発注は極力手控えた。進学情報関係業者との契約については、実績等を鑑み、精選に努めた。進路説明会への参加についても、県内を中心に精選し、参加した。印刷物については、プリントバック等、できるだけ安価な方法で発注した。

また、令和 7 年度・令和 8 年度ガイドブックの印刷業者選定にあたっては、従前に倣い、プロポーザル方式による競争見積合わせにより業者選定を行った。説明会を開き 10 社に依頼したところ 4 社からプレゼンテーション参加の申込みがあり、広報委員で審査にあたり、最安値をつけた業者と契約した。

3. 大学建物の改修及び設備品の購入、更新、経費の削減の取り組み

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

コロナ対策で昨年度、学生ホールや学生レストランに飛沫対策の亚克力パネルを設置したが、令和 5 年 3 月 13 日(月)からマスク等の対策も変更となったため本年度をもって亚克力パネルを撤去した。

(2) 施設設備及び節減

エアコン改修工事について今年度は4号館ピアノ練習室、図書館の一部改修を行った。昨年度から引き続きコロナ対策で換気しながらの運転に加えて、ウクライナ情勢などによる影響で、燃料費調整額が値上げされているため使用料が令和3年度に比べて令和4年度は-24,280kwhとなっているが電気料金は2,583,323円と大幅に増えている。現在、中国電力と安価な契約を結んでいるが令和5年度10月末で契約が終了となる。契約延長を希望するも中国電力が関西エリアから撤退することと令和5年度11月より新たに関西電力と契約となる。

<電気料金の削減効果>

令和元年度	10,690,621円(平成30年度を100とする)
令和2年度	9,563,489円(△1,127,132円 89.45%)
令和3年度	10,292,694円(△397,927円 96.27%)
令和4年度	12,876,017円(2,185,396円 120.44%)

(3) コピー用紙の削減

コピー用紙の削減については過去2年のコピー用紙購入実績を比べると令和2年度は53万円、令和3年度は37万円、今年度は31万円となり、昨年度と比べて6万円の削減成果が出てきていると思われる。

(4) 行事関係

行事関係では昨年度に引き続きコロナ禍の為学生及び教職員のみの入学式・卒業式となったが、総務部・学生キャリア支援センター・にゅうし広報センター・情報メディアセンターが中心となり、厳粛の中にも思い出深い式典を挙行了。式典の様子は、YouTubeにてライブ配信を行い、参列できなかった保護者に対して式典の様子を視聴できるようにした。

4. 学生支援に関する事業

<教務>

(1) 教学マネジメントの推進を図る。

教学マネジメントの推進については、学生支援情報システム saho navi による学修支援のための様々な機能を利活用することにより教育の質向上を目指している。

令和4年度はノートパソコン(Chromebook)必携2年目となり1回生、2回生全員がノートパソコンを活用できる体制が整った。個々の学生にとって学びの利便性を高めるべく運用している。トップ画面に新着や期限のあるものなど配信されている情報メニューが表示され、インフォメーション掲示板による連絡事項、学生全員へのメール配信、教員をはじめ、個々の学生宛てメール送信など、大学と学生のコミュニケーションツールとしての仕組みを確立したところである。

また、学生が受講する授業科目の履修登録手続き、履修する授業科目の時間割、授業に関する連絡事項、履修している授業科目の出席状況、成績やGPAなどについて、教職員及び個々の学生が確認することができる。学生のみならず、教職員にとっても利活用の幅を拡げることが可能となった。

運営上の課題は、令和5年1月に学内サーバーが、ランサムウェアによるウイルス攻撃を受けGAKUENシステム及び学生支援情報システム saho navi がシステムダウンし復旧できない状況が続いた。情報システムの外部からの攻撃に対するリスク回避のために、サーバーのクラウド化を早急に進めるとともに、情報システムの復旧を進めることとなった。

後期授業は予定どおり終了し、緊急対応としてPCによる手作業により、後期試験の実施、単位認定、卒業判定を終えた。

3月24日(金)開催の教職員連絡会において、情報システム使用不能状態の下での対応として令和5年度履修登録作業を円滑に行うための手順徹底と確認のための説明会を実施した。学籍簿の管理について、根本的な対応を迫られる事態に直面し、当面の復旧もできず、通常業務に支障を来す状況が続く異常事態となった。

例年の業務として、教育目標達成のため学修成果の査定(アセスメント)について、所定の教育課程における

資格・免許の取得状況、卒業要件達成状況、単位取得状況・GPA から教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を把握し、精度の向上を図った。

教授会及び教務委員会運営に関しては Google の機能をベースにしたペーパーレス化を継続している。

- (2) 学科・コースの教育課程編成・実施の方針に基づき、地域社会や産業界など学外から意見を聴取し、カリキュラム改革を行う。

学科・コースの教育課程編成・実施の方針に基づいてカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを構築した。

学修効果を高めるために履修人数や使用教室等について配慮し、またパワーポイントや DVD 等映像資料の活用により学生の理解度を向上させるため、教室希望調査に則って、限られた教室の配置の工夫をしてきた。令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症防止対策を継続した。

主な内容として以下のとおりである。

- ・ 3 密を避けた座席指定表を全教室に掲示
- ・ 受講における感染防止対策の徹底
- ・ 使用機器等の消毒徹底
- ・ 非常勤教員への本学取り組みについての連絡
- ・ 発熱等での欠席学生の情報管理と関係各部署への連携
- ・ 本学におけるコロナ感染情報については簡便化しつつ迅速な情報共有と対応を徹底。なお、教育課程編成・実施の方針に基づいて、地域社会や産業界など学外からの意見聴取、学外実習の実施機関に意見聴取については、令和 4 年度はコロナ禍の現状を踏まえ、地域社会や産業界及び学外実習先の方々と関わる教職員からの意見聴取にとどめた。

- (3) 教育的効果を踏まえた年間予定と授業 15 回確保及び時間割を策定する。

国のコロナ禍対応の指針等を踏まえ、今後の教育的効果を踏まえた年間予定と授業 15 回確保及び時間割の策定を以下のとおり行った。

- ・ 授業時間割コマについては、1 クラスの人数制限を勘案して配分
- ・ 学問分野の特性上対面授業を原則とすることを基本方針とし、遠隔授業は緊急避難措置として対応方法を検討
- ・ 授業の実施及び休補講については教育支援センターでの掌握
- ・ コロナ感染に関する公欠等についての扱い規程の整備
- ・ 非常勤講師への迅速な連絡と対応

令和 4 年度 2 回生在籍者 122 名のうち卒業要件を満たした者が 9 月に 1 名、3 月に 113 名 (93%) が卒業した。

- (4) 地域社会に貢献し、社会人を積極的に受け入れる。

例年、科目等履修生を受け入れるため、ウェブサイト等により情報を発信し、地域・国際連携センターと連携して聴講生を受け入れてきたが、令和 4 年度も、コロナ禍の現状を踏まえて、本学卒業の科目等履修生の受講のみにとどめた。

奈良県委託訓練事業に係る離職者訓練生を受け入れた。

- (5) 事務組織の整備

令和 4 年度は 3 名の事務職員で、授業実施に伴う「出席管理」「授業課題配信」「時間割の策定」「年間授業計画の策定及び修正」等の業務を遂行した。学内サーバーが、ランサムウェアによるウィルス攻撃を受け GAKUEN システム及び学生支援情報システム saho navi がシステムダウンしたため、教育支援センターの PC を使うという緊急対応にて後期の成績判定・単位認定の業務を遂行した。

< 学生生活 >

(1) 学生支援について

(ア) キャンパスマナー、パブリックマナーを向上に努めた。

(イ) 健康増進法の観点から禁煙及び受動喫煙防止についての敷地外の見回りを行った。新型コロナウイルス感染症対策ふまえ、奈良市に依頼し、12月末に健康講演の動画を配信した。

(ウ) 新型コロナウイルス感染症対策のため全学生に対面での交通安全講習会は実施せず、自動車・自動二輪・バイク通学希望者のみ、YouTubeでJAFの交通安全講習会を視聴し、問題に解答させることとした。

(2) 学友会活動の支援について

(ア) 新型コロナウイルス感染症対策のため、学友会総会は各クラスのクラス委員のみで実施した。学友会行事については、七夕、ハローウィン、クリスマス会の各時期に学生ホールで飾り付けを行った。

(イ) 3月末に全学生参加の行事を計画したが、実習等の変更により、運営する学生の確保が出来ず、次年度へ繰り越された。

(3) 留学生の支援について

新型コロナウイルス感染症予防のために、生活面や健康面で具体的に支援することが困難であった。

(4) 大学祭の支援について

新型コロナウイルス感染症対策のため6月の学外実習が10月に延期となったため、開催が困難となり、中止となった。

(5) 職業訓練生の対応について

出欠管理や月末報告に必要な書類や企画提案書の作成等は他部署・教員の協力もあり円滑に実施できた。

< 障害学生修学支援 >

(1) 修学に際し支援を必要とする障害のある学生に対する公平で適切な修学支援の促進

① 委員会を6回(4月、5月、6月、9月2回、3月)開催し、障害学生の認定、支援計画の策定から支援実施後の検証を行い、支援の公正で円滑な運営を図った。

② 障害学生修学支援委員会で新規に12名(生活未来科:5名、地域こども学科:7名)の障害学生を認定し、支援計画を策定した。また、前年度からの継続支援として4名(生活未来科:3名、地域こども学科1名)の学生の支援を行った。

③ 個別の教育支援計画に基づき、教育支援センターと連携し、支援の調整に取り組んだ。授業欠席への配慮、スライドの資料配付、課題提出期限延長等を実施した。また、卒業後の進路における支援として、民間事業者をより活用して学生の意向に沿った就職情報の提供を行った。

④ 学校生活における支援として、2名のカウンセラーによる学生相談を行った。

(2) 支援を必要とする学生の早期認定と支援の開始

① 新入生及び保証人に対して、入学説明会前に案内文書や障害支援の取り組みについて周知を図った。

② 入学前からの相談を通じて状況を把握できるよう、入試・広報センターと連携を図り、学生及び保証人等から相談を受ける教員と情報共有及び連携をすることにより、早期から支援認定に繋げることができた。

(3) 相談体制の確保

学生の悩みごとに関する専門的相談窓口として学生相談を運営しているが、カウンセラーが2名体制では相談学生の増加により支援を必要とする学生の相談枠の確保が困難な状況となっていることからカウンセラーと協議し各日1時間延長した。相談回数が4月から12月までの間で延べ258回(実数27名)そのうちカウンセラーから病院を紹介され、受診の結果、次年度より障害学生支援申請をする学生が1名となった。相談時間を延

長した事により、相談者数が増加した。また、教職員が学生の件で相談する機会も増加した。

(4) 就職支援の充実

2 回生となった支援学生 8 名に対し、本人の意向に沿った就職情報の提供を行った。9 月卒業の 1 名は本人の意向に沿った看護助手として就職した。1 名は資格取得が不可能なことから初任者研修を受講し、施設への就職となった。1 名は幼保の資格を活かした就職、1 名は一般企業への就職、1 名はアルバイト継続となった。3 名は本人の学習意欲低下により卒業が困難となった。

(5) 教職員の専門的能力開発のための勉強会・研修会の開催

日本学生支援機構主催の令和 4 年度「障害学生支援理解・啓発セミナー」にて、本学の事例紹介を行った。セミナーはオンラインで開催及び収録され、障害学生支援センター員 1 名が奈良佐保短期大学の取り組み状況を紹介した。同機構は、その状況を動画で関係大学等に配信した。

<就職指導>

(1) 就職率 100%をめざす

令和 4 年度は、新 2 回生を対象とした進路希望調査面談を 4 月から、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をして実施した。面談時には就職フェアや企業説明会、他大学のオープンキャンパス等の案内もしたが、今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインによる説明会が多かった。しかし、オンラインに慣れていない学生が多く、参加する学生は少なかった。また、学外実習の時期と重なったことで、さらに就職活動始動のタイミングが遅れたと考えられる。[3/31 現在 95.2% (前年同日 96.1%)]

(2) サポートプログラムを充実させる

1 回生科目「基礎ゼミナール I・II」及び「キャリアデザイン」において、就職活動で必要となる基礎的な学力や知識（就活スケジュール、一般常識、自己理解、面接マナー等）を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をした上で、外部講師を招いた就職関連セミナー（スーツの着こなし講座・労働セミナー）を実施することにより、就職への意識を高めることができた。また教員と連携を図り授業内でキャリア意識を高める取り組みをしたことが、学生の就職への意識を高めたと考えられる。

(3) 積極的な就職支援を行う

多くの学生が資格を活かした就職を目指しているが、中には取得資格に関連しない業種を希望する学生もいる。学生・キャリア支援センターでは、求人票の見方やエントリーシート記入への指導や履歴書等の書類作成、面接練習を実施する等、就職支援全般に対応している。就職活動の始動に踏み切れない学生、資格取得をしない若しくは出来ずに進路変更をする学生、社会参加への意識の低い学生に対しては、各学科の教員と情報を共有することで学生の状況を把握し、声かけや進路に対する相談にのる等、積極的なサポートに努め、スムーズな進路決定に繋がるように支援した。

(4) 公務員試験対策講座を開講する

公務員を希望する学生への支援を継続的に行っている。学内独自のもの、外部専門業者による 2 種類の講座を計画した。今年度は外部専門業者による講座を希望する学生が 3 名と少なく、中止となった。(5 名以上で開講) また、学内独自の講座に特に力を入れ、第 1 期から第 4 期に渡り実施し、基礎学力の充実及び面接対策個別のキャリアカウンセリングを行った。

(5) 卒業生と在學生との交流の機会をつくる

卒業生と在學生の交流の機会として、大学祭でのホームカミングデーや同窓会の呈茶席があるが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学祭は中止となった。卒業生と在學生が交流することで、より良い情報共有や今後の就職活動や進路決定に繋がるように支援を行いたい。

(6) 卒業生に短期大学卒業生調査を行う

令和4年度も卒業生調査を卒業後1年の学生を対象に行った。回答者率は29.1%であった。『卒業した短期大学に取り組んでほしい、または支援してほしいと考えていること』の質問に「奨学金返済に関する相談」が28.1%、「転職や復職の支援」が25.0%『卒業後短期大学とどのようなかかわりを持っていたか』の質問に「担任を訪ねたり連絡をとったりした」46.9%であった。また、『短期大学で学んだ知識や能力はどの程度役立っていますか』の質問に「専門分野や学科の知識が役立った・ある程度役立った」83.3%であった。資格を活かした職業に就職する学生が多く、卒業後も専門的なことや、仕事に関する悩みや奨学金返済に関する相談に来学する傾向があることが分かった。

5. 組織・運営に関する事業

(1) 図書館の運営

(ア) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応 継続（令和2年度～）

① 開館及びサービス

令和4年度も昨年度に引き続き、座席指定、閉館後の消毒など感染予防を徹底した上で、学内者に限り図書館サービスを継続した。

② 電子書籍の導入

a 追加購入

令和2年度に契約した丸善雄松堂（株）の「Maruzen eBook Library（学術書籍に特化した機関向け電子書籍配信サービス）」に、各学科・コースでの導入タイトルの検討を経て、電子書籍13点を追加購入し、3月末には、計49タイトル（図書資料26冊、消耗資料8冊）を提供した。

(イ) 学習成果の獲得に必要な授業・学生への支援

① 学習資源の整備と充実（課題）

a 各学科・コースの学修成果獲得のための資料の充実 継続（平成15年度～）

国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムへの自館資料のデータアップ 継続（平成21年度～）
図書資料847冊、消耗資料357冊、雑誌355冊を受入・装備した。図書・消耗資料については、国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムへデータを追加入力した。受入資料全てに目次情報も入力した。

b 福祉関係資料の独自分類資料及び介護記・闘病記関係資料の充実 継続（平成23年度～）

福祉関係独自分類資料を129冊、介護記・闘病記関係資料7冊の収集と装備をした。

c 学習資源充実のための図書資料の遡及入力及び蔵書点検 継続（平成21年度～）

・全蔵書4年サイクル分「1.開架：参考、0～300、P、絵本、S」の棚卸作業

令和3年度に実施した全蔵書棚卸し（在庫確認）後は、令和3年度に全蔵書を書架別に4区分し、4年サイクルで全蔵書を点検する棚卸し（在庫確認）計画を策定した。令和4年度は、このうち、「1.開架：参考、0～300、P、絵本、S」の棚卸作業を実施した。「蔵書点検機器ハンディーターミナル」で1日中作業をした場合の点検数は約5,000冊とされており、9月5日～9月7日の蔵書点検期間のみでは作業が終わらないため、6月初旬から作業を進めた。6月3日～8月2日までに、29,837冊の棚卸作業（在庫確認）をした。

・毎年点検棚卸作業「各部署保管資料」を実施した。「各部署貸出資料の点検についてのお願い」文書を各部署に配付し、各部署にリストと現物の照合を求め、点検済みリストを回収した。

・年度末の3月に、毎年点検棚卸作業「研究室及び非常勤講師教科書等資料」を実施した。

退職者及び専任教員全員（研究室貸出該当者：19名）と教育支援センター（非常勤講師4名）に、「研究室貸出資料の点検についてのお願い」文書と「個人別研究室貸出資料リスト」を配付し、各教員にリストと現物の照合を求め、点検済みリストを回収した。

・年度末の3月に、毎年点検分棚卸作業「開架書架：雑誌・資格関係資料・教科書コーナー」を実施した。

・令和3年度に実施した全蔵書棚卸し（在庫確認）の整理業務

令和3年度に実施した全蔵書棚卸し（在庫確認）後の整理業務（廃棄作業、遡及入力等）を実施した。

具体的には、(ア) 全蔵書棚卸し後の「現物はあるが、データがない」約1,000冊について、資料価値を鑑みながら、遡及入力をするか廃棄処理をするかを判断する作業、(イ) 図書台帳と図書館システムデー

タの照合作業である。

(ア) については、8月までに作業を終え、「データなし、現物あり」の資料のうち書誌データを遡及入力したものが548冊、廃棄したものが308冊、計856冊の処理を行った。

(イ) については、10月末に作業を終え、会計監査法人に承認を得た後、結果を令和3年度末の決算に反映させた。

- ・ 「奈良佐保短期大学図書館資料除籍取扱内規」第3条第二号及び第三号の基準に従って、図書・学術委員会で選定された「除籍対象資料」1,640冊を除籍処理した。
- d 本学レファレンス記録の保存〔継続 平成24年度～〕
今後の利用者サービスに活かすため、本学レファレンス記録の保存に努めた。1年間で80件の事例を記録した。
- e 学生・教員の学修・研究を支援する相互利用の推進 継続（平成21年度～）
国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムを活用し、他大学との文献複写、相互貸借を行った。件数は、文献複写（受付1件、依頼16件）、相互貸借（貸出2件、依頼0件）であった。

② 学習方法の支援（講習会）

- a 「新入生向け図書館利用ガイダンス」 継続（平成18年度～）
館内で希望者に実施していた「新入生向け図書館利用ガイダンス」は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、開催を見合わせたが、「新入生オリエンテーション」内で動画による説明を行った。
- b 1 回生対象「文献の探し方」講習会 継続（平成19年度～）
教員から依頼のあった各学科・コースの1回生対象に、「文献の探し方」講習会を実施した。講習内容は、図書館書使い方、オンラインデータベース「Japan Knowledge」「聞蔵」や「カーリル」の使い方、「レポートを書くために使った情報源を参考文献リストに書くときは、どうすればいいの？本の場合、雑誌の場合」資料を使った参考文献の書き方等の講習、令和2年度から購入している「電子書籍」の使い方等であった。
講習後に演習問題を課し、回収した演習問題と理解度向上を図るためにとったアンケート結果を担当教員にフィードバックした。昨年度に引き続き今年度も理解度を深めるため、演習課題を添削後学生にフィードバックした。新入生は全員が Chromebook を持っているため、Classroom での資料の配信や Google フォームでのアンケートの回答とした。
- c 2 回生対象「卒業研究・事例研究のための文献の探し方」 継続（平成19年度～）
教員から依頼のあった授業において、2回生対象「卒業研究・事例研究のための文献の探し方」講座を実施した。bの講座内容を踏まえつつ、参考・引用文献の書き方、「CiNii Articles」「グーグルスカラー」の使い方等、主に論文執筆に向けて必要なスキルを中心に講習会を実施した。

6月29日（水）1時限	生活福祉コース「介護総合演習Ⅲ」	16名
-------------	------------------	-----

- ③ 授業・教員との連携 継続（平成19年度～）
 - a 図書館システム Lib Max の“ブックリスト機能”を活用した授業との連携 継続（平成21年度～）
図書館システムの“ブックリスト機能”を活用した所蔵資料のブックリストを作成し、併せてその関連資料を館内に展示するなど効果的な学習支援に努めた。
 - b きらっと図書館講座 継続（平成17年度～）
新型コロナウイルス感染症感染予防のため、実施を見合わせた。
 - c 授業制作物の館内展示 継続（平成22年度～）
地域子ども学科教員の指導の下に制作した「自己紹介カード」「布製手づくりカバン」及び食物栄養コースによる給食管理実習のレシピや卓上カードなどを記録したファイルなどを館内展示した。
 - d 「図書館を活用した授業実践例」データの蓄積 継続（平成25年度～）
「図書館を活用した授業実践例」を11件集積した。
 - e 「授業科目レポート課題履歴」及び「奈良佐保短期大学教材データベース」データの蓄積
継続（平成26年度～）

「授業科目レポート課題履歴」を23件、「奈良佐保短期大学教材データベース」データを23件集積した。

④ 学修成果の獲得に必要な具体的支援策の模索 継続（平成26年度～）（課題）

令和3年度に集積した「図書館を活用した実践例（まとめ）」「奈良佐保短期大学教材データベース」
「授業科目課題履歴」データを公開し、令和4年度も引き続きそれらのデータを集積した。令和3年度
「生活未来科生活福祉コース事例研究集」に掲載された「論題及び引用・参考文献リスト」を作成し公開した。

(ウ) 学修成果の獲得のための学生支援

① 他部署・学科と連携した就職支援、学生支援の検討

a きらっと図書館講座 継続（平成17年度～）

新型コロナウイルス感染症予防のため、開催を見合わせた。

b 「としょかん de カフェ：Xmasバージョン」 継続（平成28年度～）

新型コロナウイルス感染予防のため、開催を見合わせた。

(エ) 学修成果獲得のための学習環境の整備（課題）

① 学習環境を整えるための館内整備及びグループ学習室の整備 継続（平成25年度～）

a 新型コロナウイルス感染症予防に伴う対応

- ・3つの密（密閉・密集・密接）を避けるため、館内席数の半減
- ・ロッカー番号による座席指定
- ・閉館後の消毒
- ・入口の手指消毒用アルコール設置
- ・カウンターの飛沫防止フィルム設置等の感染対策をとった

(オ) 地域公開 継続（平成25年度～）

① 令和3年度から学外者の構内立ち入りを制限しているが、事前連絡なしの来館があり、閲覧のみ短時間利用とした。一般利用者の利用は、7日12名であった。

② “奈良市地域子育て支援センター ゆめの丘 SAHO” のサービス提供 継続（平成20年度～）

“奈良市地域子育て支援センター ゆめの丘 SAHO” に対し、毎月絵本を中心とした資料（月30冊）の団体貸出を行った。

(カ) その他（課題）

卒業対象者・未返却者に対する対応策について 継続（平成26年度～）

未返却者に対して12月から授業内で教員から督促状の手渡しや、図書館員による督促状の手渡し及びメールや自宅へ電話督促を行うことで、2月時点では、卒業対象者及び新2回生ともに0名となった。

(キ) 歴史的文書の収集・保存研究（課題）

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策及び全蔵書の棚卸し作業に専念する必要があるため、大学歴史的文書の収集・保存研究について、図書館内の保存研究資料の整備にとどめた。

(ク) 図書館システムの更新作業

現在運用している図書館システム（Lib Max・Cat MAX・Lib Finder）は、平成27年版であり、その使用は令和5年度末までとされており、令和2年版への更新が必要である。（株）ソフテックによるサーバー設定が必要となるため、大学仮想サーバーの入れ替え時期と同時期での更新を予定していたため、令和3年度に予算承認を受けていたが、購入を見送っていた。

令和4年度末に、大学仮想サーバーの運用見直しが行われた際に、図書館システムの導入についても再検討した。現在、学内仮想サーバーに置かれている図書館データは、①LB2「図書管理システム（LibMax・CatMAX・LibFinder）」②「LB1 蔵書検索システム公開用（Lib Finder）」の2種である。図書館システム更新作業の検討にあたり、（株）ソフテックから、A「パッケージ版図書管理システム更新+LibFinderクラウド（①LB2データを学内の物理サーバーに置き、②LB1データをソフテック（株）によるクラウド管理とする）」、B「クラウド版図書管理システム+Lib Finderクラウド（LB2及びLB1データをソフテック（株）

によるクラウド管理とする」2種の提案を受けた。情報メディアセンターとも協議の上、Bの場合は、「LibFinderクラウド料」「図書館システムクラウド料」両方の経費が毎年必要となるため、経費が抑えられるAの方法を選択し、令和5年3月末に、図書館システムの更新をした。

(2) 自己点検評価室の運営

(ア) 自己点検評価室の取り組み

自己点検評価室では定期的に自己点検・評価活動を行っている。今年度は例年の活動に加えて、令和5年度からの第3期中長期計画の策定に関する活動及び数理・データサイエンス・AI教育プログラム申請に向けての活動を行った。

① 自己点検評価室の取り組み

自己点検評価室では定期的に自己点検・評価活動を行っている。毎月の自己点検評価室会議は、FD推進委員会とSD委員会の動きを把握し、自己点検・評価報告書作成に向けて情報共有を行っている。教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、本学の教育の向上・充実に資するとともに、評価システムや評価の結果を公表することによって広く社会の理解と支持を得ることを目的とする。

本学の理念や教育目標などあらゆる分野を対象として、その達成状況を検証し、改善に向けた検討を行う。今後も引き続き自己点検・評価活動に対する認識を深め、参加者への意識も高めるために、関心のあるテーマ、参加しやすい日時での実施、併せて活発に意見交換ができる環境を整えている。

そのほかの業務として、新任教職員研修会、短期大学基準協会による短期大学生調査を行っている。短期大学生調査についてはWEB方式で実施しており、単純集計結果は例年、教授会で共有している。なお、短期大学基準協会による卒業生調査については学生・キャリア支援センターが主となって実施している。

② 自己点検評価報告書

昨年度作成した、自己点検評価報告書を刷新することを目的に、データ収集などを行った。中期計画策定作業という新たな業務が入ったことで、作成が大幅に遅れ、完成は年度末になった。

③ 第3期中長期計画の策定について

令和5年度からの第3期中長期計画の策定に取り組んだ。自己点検評価室で今後5年間の目標を検討し、目標を達成するための実施計画を学科、部署で検討の後、自己点検評価室で取り纏めを行った。今後、各年度の実施計画の達成度や進捗度等を検証し、中期計画の達成を目指す。

④ 数理・データサイエンス・AI教育プログラム申請について

令和4年10月の教授会において、学長から、教務委員会、情報メディアセンター運営委員会、自己点検評価室の協力のもと次年度の申請に向けて取り組むよう要請があった。そのため、自己点検評価室として数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検体制づくり及び申請書類作成を行った。

⑤ 研修会

今年度は中期計画策定に関する研修会を実施した。

a 令和4年度第1回自己点検評価室研修会

日 時：令和5年1月23日（月）～1月27日（金）

テーマ：「奈良佐保短期大学の現状」

講 師：倉田 清氏（奈良佐保短期大学事務局長）

場 所：配信 オンデマンド

出席者：45名（教員：25名、職員：20名）

詳 細：1月27日開催の自己点検評価室研修会「経営改善のためのセミナー」受講のための研修会。奈良佐保短期大学の財務状況等を中心に説明をした。オンデマンドで研修を行った。

b 令和4年度第2回自己点検評価室研修会

日 時：令和 5 年 1 月 27 日（金）13:30-15:00（オンライン及び対面によるハイフレックス）

テーマ：自己点検評価室研修会「経営改善のためのセミナー」

講 師：日本私立学校振興・共済事業団

場 所：3 号館会議室及びオンライン配信

出席者：47 名（教員：26 名、職員：21 名）

詳 細：奈良佐保短期大学の実情は、どのようになっているのか、全国平均と比較してどうなのかなど、具体的に講演いただいた。

（イ）FD 推進委員会の取り組み

学修成果に関する調査及びティーチングポートフォリオの作成、公開授業、FD 研修会の内容等について検討した。

学修成果に関する調査については、今年度より学内教務システム saho navi を利用して実施した。

後期については、ウイルス感染により saho navi が利用できなくなったため前期 1 回の実施となったが、saho navi を利用することで経費面でも事務作業面でも負担を減らすことができた。

また、学修成果に関する調査終了後には、以前実施していた教員による学修成果に関する調査に代わりティーチングポートフォリオの作成を専任教員に依頼し、作成後は教職員に公開した。

公開授業は、前期 14 科目・後期 9 科目で実施した。コロナ禍のため昨年度と同様に参観者は教職員（専任・非常勤）、理事・監事・評議員とした。また、今年度は授業後に実施する検討会と報告会に「事前・事後学修」というテーマを設け、どのような事前・事後学修を学生に課しているか等を報告、意見交換した。

FD 研修会については、他の委員会と協力し 2 回実施した。オンラインやオンデマンド等を併用し研修会を実施することで参加率も上がっており、当日参加できなかった場合も後日研修会の資料等を確認し、アンケートフォームに回答してもらうよう促すことにより教員の参加率をあげることができた。

以下、①～③に学修成果に関する調査・公開授業及び公開授業検討会・FD 研修会の実施期間と参加者を記す。

① 学生・教員による学修成果に関する調査

【前期】

実施期間：7 月 1 日（金）～ 7 月 27 日（水） 136 科目で実施

（延べ履修者数：3211 人 延べ回答者数：2416 人 回答率：75.2%）

【後期】

中止（saho navi の利用ができなくなったため）

② 公開授業、公開授業検討会、公開授業報告会

【前期】

・公開授業日：7 月 4 日（月）～7 月 8 日（金）

・参観者数：（延べ）：教員 20 名 職員 8 名 理事・評議員 3 名 非常勤講師 1 名

計 32 名参加

・参観科目：専任教員担当 14 科目

・公開授業検討会：7 月 4 日（月）～7 月 13 日（水）

・公開授業報告会：8 月 8 日（月）14：00～15：15 オンライン開催

教員 22 名 職員 8 名 計 30 名参加

【後期】

・公開授業日：11 月 28 日（月）～12 月 2 日（金）

・参観者数（延べ）：教員 11 名 職員 11 名 理事・評議員 1 名 計 25 名参加

・参観科目：専任教員担当 9 科目

・公開授業検討会：11 月 28 日（月）～12 月 5 日（月）

・公開授業報告会：1 月 6 日（金）16：30～17：40 オンライン開催

教員 20 名 職員 10 名 計 30 名参加

FD 研修会

- ① 令和4年度第1回FD研修会（SD委員会、人権教育推進委員会と合同開催）
日 時：令和4年6月30日（木）16：00～17：00
テーマ：「ハラスメント防止と風土の改善～労働施策総合推進法の改正をうけて～」
講 師：荒木 義雄 氏（あらき社労士事務所）
場 所：本学3号館会議室・オンライン
出席者：教員26名 職員20名 計46名
（内オンライン参加、後日資料確認者数：教員11名 職員9名 計20名）

- ② 令和4年度第2回FD研修会（情報メディアセンター運営委員会と合同開催）
日 時：令和5年2月9日（木） 13：00～
テーマ：「昨今のICT/DXトレンドとサイバーセキュリティ」
講 師：四本 英夫 氏（特定非営利活動法人 CIO Lounge）
場 所：本学3号館会議室・オンライン
出席者：教員19名 職員16名 計35名
（内オンライン参加、後日資料確認者数：教員12名 職員9名 計21名）

（ウ）SD委員会の取り組み

SD委員会としては、自己点検評価室の下で短期大学設置基準の趣旨に則り、大学教職員全員に向けた能力開発・向上の取組としての研修を他の委員会との合同開催として行った。

上記とは別に令和4年10月13日（木）「中長期計画の策定のポイントについて」及び令和4年9月8日（木）教務研修「今さら聞けない大学基礎知識」として、全教職員を対象に「大学改革支援・学位授与機構発行の高等教育に関する質保証関係用語集」の解説を行った。

SD 研修会

- ① 令和4年度第1回SD研修会
日 時：令和4年9月8日（木）13：30-14：30
テーマ：教務研修「今さら聞けない大学基礎知識」
講 師：黒川丈朗氏（副学長・教育支援センター長）
場 所：本学3号館会議室
出席者：32名（教員：22名、職員10名）

- ② 令和4年度第2回SD研修会
日 時：令和4年10月13日（木） 15：30～16：00
テーマ：「中長期計画の策定のポイント」
講 師：黒川丈朗氏（副学長・教育支援センター長）
場 所：本学3号館会議室
出席者：32名（教員：22名、職員10名）

（3）情報メディアセンターの運営

（ア）Chromebook 必携化に沿った運用実施

本年度は、新入生(1回生)全員に、Chromebook を購入してもらい、これで学生全員が Chromebook を携帯することになった。これに伴い、授業やレポートの作成等に徹底活用した。一部の授業は、遠隔授業も実施し始めるなど、授業形態も大きく変化した。

（イ）共有仮想サーバーの切換え実施

平成28年3月に導入した日立製の共有サーバーが、停電やファームウェアのバージョンアップ等の不具合で、突然停止するなど不調な状況にあり、リプレースを実施した。

今回は、オンプレミス（学内に物理的にサーバーを設置する）のではなく、クラウド上にサーバーを構築するように変更。

現状では、学内にサーバーがある限り、何かのトラブルが発生した場合、学内の人間で（情報メディアセンター）一次的な対応をとる必要があるが、数年で対応メンバーが入れ替わる現状では、詳細な作業の移管の実施は現実的に不可能であり、その影響で、システムトラブルへの対応が遅くなる課題があった。

今回、サーバーをクラウド化することで、クラウドを管理運用する会社が1次的な対応を実施することとなるので、トラブル対応が迅速に行えるメリットがある。また、ハード故障に対する大学側のリスクはゼロになるため、運用の簡易化が図れる。

加えて、オンプレミスの場合は、5年先の環境を見据えて、サーバーの環境構築をする必要があるが、クラウドの場合は、年単位で、性能やファイルサイズを変更できるので、効果の低い投資をしなくて済むことが考えられる。

（ウ）セキュリティウイルス対策強化

令和5年1月6日（金）にランサムウェア（身代金要求型セキュリティウイルス）にかかり、サーバー内のデータが暗号化された。バックアップデータや、ウイルスチェックツールも暗号化で動作しなくなってしまった。前項目で記載しているように、学内の主要サーバー（AD/DNS）がクラウド化したため、ふるまい検知、暗号化をもとのデータに戻す機能が付いた、新しいセキュリティツールを導入し、サーバーへのセキュリティ強化を実施した。

（エ）無線 LAN（WiFi）環境の整備

昨年度で、授業で WiFi の必要な教室には利用環境の整備が完了。その段階で WiFi が利用できない主なエリアは、体育館や、実験室となっていた。WiFi 工事費は高額になるため、今年度は、これらのエリアには、導入費用が安価なホームルーター（ポケット WiFi の高性能なもの）の導入を行った（令和5年2月導入）。来年度は WiFi を使った事業のエリアが拡大される。

（4）IR 推進室

（ア）IR データの収集

① 令和3年度入学生の令和3年度の IR データを整理、一部追加した。

（イ）IR データの活用促進

① 委員会（第1回7月6日）を開催し、IR データの活用方法及び収集方法について検討を行った。

② 2021（令和3）年度入学生の入試区分と2021年度前期／後期 GPA の関係性に関するクロス集計結果を委員会（第1回）で共有した。

（ウ）外部研修会への参加

① 委員の中田教員が第1回「短期大学生調査」データ活用セミナー（オンライン）に参加した。

（5）防災対策・環境

（ア）老朽化した施設設備の維持・管理をする。（継続）

① 危険箇所等の早期発見等につなげるため危険予知シート・気がかりシートを活用した。

② 冬季の構内環境の改善

冬季は校舎周辺が暗く、寂しさを感じるため、学生が帰る時、少しでもほっこりしてほしいという思いから、玄関にハロウィン・クリスマスや正月の装飾を施し、今年度は木々や園庭にも新たに LED 電飾を施した。また教員と学生の有志で鹿の像を作成し、構内環境の改善に努めた。

（イ）地域と共にある大学としての具体的な取り組みを実施した。（継続）

地域防災避難訓練

「安全で安心なまちづくり」を推進するため、地域住民参加型の地域防災避難訓練を実施した。本学5回目の取り組みで、本学の専門性を活かした避難所体験を計画した。

回数・年度	第1回 平成30年度	第2回 令和元年度	令和2 年度	第3回 令和3年度	第4回 令和4年度	
実施日	11月24日(土)	9月28日(土)	新型 コロ ナ感 染症 感染 拡大 で中 止	10月2日(土)	10月1日(土)	
参加者数	参加者合計	251名		380名	295名	249名
	学内合計	95名		149名	164名	150名
	学生	60名		113名	123名	108名
	教職員	35名		36名	41名	42名
	学外合計	156名		231名	131名	99名
協力団体	奈良市・奈良市消防局・奈良警察署・奈良県栄養士会・鹿野園町自治会・鹿野園町自警団	奈良市・奈良市消防局・自衛隊・奈良県栄養士会・消防団・鹿野園町自治会・鹿野園町自警団・ガイドドリンク		奈良市・奈良市消防局・自衛隊・奈良県栄養士会・消防団・鹿野園町自治会・鹿野園町自警団・ガイドドリンク・ネットヨタ奈良	奈良市消防局・自衛隊・奈良県栄養士会・消防団・鹿野園町自治会・鹿野園町自警団・ガイドドリンク・奈良トヨペット・ネットヨタ奈良・大塚製菓	
取組内容	①地域聞き取り調査結果の報告 ②炊き出し訓練(300食:おにぎり・豚汁)と試食 ③段ボールベッドの組立体験 ④段ボールの簡易トイレの組立体験 ⑤段ボール間仕切りの組立体験と間仕切り快適空間調査 ⑥防災食の調理と試食 ⑦AEDの操作体験 ⑧新聞紙・折り紙でできる遊び、絵本の読み聞かせ等 ⑨エコノミークラス症候群予防運動体験 ⑩防災グッズ展示と備蓄防災食配布(奈良市) ⑪パッキング(奈良県栄養士会) ⑫ドクターヘリは、	①地域調査結果の報告 ②炊き出し訓練(400食:カレーライス)と試食 ③段ボールベッドの組立体験 ④段ボールの簡易トイレの組立体験 ⑤防災食の調理と試食 ⑥AEDの操作体験 ⑦応急担架の作り方と搬送法の体験 ⑧新聞紙・折り紙でできる遊び、絵本の読み聞かせ、カプラー等 ⑨エコノミークラス症候群予防運動体験 ⑩新聞紙でつくるスリッパや避難用リュック体験 ⑪防災グッズ展示と備蓄防災食配布(奈良市) ⑫パッキング(奈良県栄		①地域調査結果の報告 ②炊き出し訓練(350食:カレーライス)と試食 ③段ボールベッドの組立体験 ④段ボールの簡易トイレの組立体験 ⑤防災食の調理 ⑥AEDの操作体験 ⑦応急担架の作り方と搬送法の体験 ⑧車椅子操作体験 ⑨紙工作・紙芝居・楽器演奏・絵本の読み聞かせ ⑩エコノミークラス症候群予防運動体験 ⑪新聞紙でつくるスリッパ等の製作体験 ⑫防災グッズ展示(大島商会) ⑬備蓄防災食配布(奈良市) ⑭パッキングの演示(奈良県栄	①段ボールベッド・簡易トイレの組立演示 ②応急担架の作り方と搬送法の体験 ③車椅子の操作体験 ④エコノミークラス症候群予防運動体験 ⑤新聞紙でスリッパ等製作体験 ⑥防災食調理の演示 ⑦スマートフォンの講習会 ⑧地域調査結果の報告 ⑨昔ながらの遊び(伝承遊び) ⑩炊き出し訓練(400食:カレーライス)と黙食訓練 ⑪備蓄防災食配布(奈良市) ⑫パッキング(奈良県栄	

	緊急要請のため飛 来せず	良県栄養士会) ⑬ロープワークと 災害時に必要なノ ウハウと人命救助 装備品 (自衛隊) ⑭飲料水提供 (ダイ ドードリンコ) ⑮ドクターヘリは、 無事に本学グラウ ウンドに着陸し、多く の方が機内を見学		養士会) ⑮ロープワークと 災害時に必要なノ ウハウと給水車 (自 衛隊) ⑯飲料水提供 (ダイ ドードリンコ) ⑰外部給電可能車 両「ミライ」の展示 (ネッツトヨタ奈 良) ⑱ドクターヘリは、 緊急要請のため飛 来せず	害時に役立つノウ ハウ等・非常用糧食 展示 (自衛隊) ⑭飲 料水提供 (ダイド ードリンコ) ⑮外部給電可能車 両展示 (奈良トヨ ベ ット・ネッツトヨタ 奈良) ⑯備蓄防災食紹介 (大塚製薬) ⑰ドク ターヘリ本学グラ ウンド離着陸 ⑱起震車による地 震体験 (奈良市消防 局)
避難所運営 班名	①総務班、 ②名簿班、 ③食料班、 ④物資班、 ⑤救護班、 ⑥衛生班、 ⑦連絡班、 ⑧屋外班、 ⑨体験班、	①総務班、 ②名簿班、 ③食料班、 ④物資班、 ⑤救護班、 ⑥衛生班、 ⑦連絡班、 ⑧屋外班、 ⑨体験班、		①総務班、 ②名簿班、 ③食料班、 ④物資班、 ⑤救護班、 ⑥衛生班、 ⑦連絡班、 ⑧屋外班、 ⑨体験班、	①総務班 ②受付班 ③食料班 ④救護班 ⑤衛生班 ⑥連絡班 ⑦屋外班 ⑧体験班
研修手法	ブラインド研修	ブラインド研修		ブラインド研修	ブラインド研修

(ウ) 緊急時の教職員及び学生の安否確認の視点から見た訓練 (継続)

安否確認メールの返信率向上

教職員・学生に対して、年2回、安否確認メールの返信訓練を実施している。昨年度と同様に遠隔授業で活用されたGoogleフォームを使って安否確認を行った。返信率向上が課題である。安否確認メール返信訓練の重要性を周知して返信率を高めるため、HR等で教員に呼び掛けてもらい学生の意識向上を図った。

(エ) 本学の教育姿勢を感じてもらえるような学内景観の維持・管理 (継続)

教職員・学生はもちろんのこと来学者にも清潔感があり、親しみを感じてもらえるよう、学内景観の維持に努める。

(オ) 本学ブランディングの一翼を担う学内農園の維持・管理をする。(継続)

- ① 引き続き、学外・学内に向け、本学の魅力の一つである農園の活用方法を検討する。
- ② 農園で栽培した野菜を、イベント等で販売することや、オープンキャンパス参加者へのお土産として渡すこと、学内レストランを利用する在学生の満足度を向上させる為に無償提供することで、本学ブラン

ディングの一翼を担った。

③ 農園を維持管理し地力を高める目的で本来業務の合間で耕耘するために、小型乗用トラクタを無償で譲り受け、導入した。

(カ) 安否確認メールの訓練を実施する。(継続)

引き続き、安否確認メールの返信訓練を行い、教職員・学生の状況収集に努め、非常時に備えた。

(キ) 学内避難訓練の視点から見た訓練

通常のグラウンドへの避難訓練及び非常時の備えとして、教室でシェイクアウト訓練を実施した。グラウンドへの避難については事前に学年学科コースごとの場所を決め整列することに努めた。

6. 社会や地域への貢献に関する事業

(1) 地域・国際センターの運営

(ア) 地域との連携の推進

地域の学びの拠点となるべく、公開講座、開放授業、履修証明プログラム等の取り組みを進めた。また、入試・広報センターと防災・環境委員会と協働して地域ぐるみのイベントを実施した。

① 公開講座「夢の丘 SAHO セミナー 知の扉」 継続 (平成 15 年度～)

5 講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

	タイトル・日時	後援	募集定員	講師名	参加者数
1	データサイエンスの動向と取り組み 8月 5日 (金) 10:00～12:00	○	20名	川崎 敬二	中止
2	みんなで作る音楽会！ーピーターと狼ー 8月 8日 (月) 13:00～15:00	△	10組	大山 宮和瑚 梅村 憲子	中止
3	オリジナルボックスを作ろう 8月 10日 (水) 13:00～14:30	○	10名	生駒 英法	中止
4	奈良を味わう～奈良県の家庭料理・行事食～ 8月 10日 (水) 10:00～13:00	○	10名	島村 知歩	中止
5	みんなの認知症予防 8月 26日 (金) 10:00～12:00	○	20名	島村 真理子 紀平 佐保子	8名
6	まち歩きの人になるろう 11月 5日 (土) 9:30～11:30		10名	中田 奈月	中止
7	冬野菜親子クッキング 2月 19日 (日) 10:00～13:00		8組	島村 知歩	3組

後援 ○は奈良県教育委員会の教職員研修講座と連動して開催。

△は、なら子育て大学の委託講座と連動して開催。ともに平成 24 年度から継続。

公開講座の推移については、下表のとおり。

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
講座数	5 回	8 回	8 回	9 回	7 回	2 回
総定員	139 名	185 名	156 名	一名	74 名	36 名
総参加者	148 名	92 名	138 名	一名	28 名	12 名

② 開放授業 継続（平成 20 年度～）

分 類	前 期		分 類	後 期	
	聴講科目	履修者数		聴講科目	履修者数
介護・福祉	認知症の理解Ⅱ	1名	子育て	社会的養護Ⅰ	1名

参加者数の推移は下表のとおり。

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
前期	8名	2名	1名	1名	1名	1名
後期	5名	1名	1名	1名	2名	1名
総参加者	13名	3名	2名	1名	3名	2名

③ 履修証明プログラム 継続（平成 21 年度～）

今年度の受講者はいなかった。受講者の推移は下表のとおり。

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
受講者	0名	0名	1名	1名	3名	0名

④ 教育訓練給付制度講座指定 継続（平成 30 年度～）

介護職員初任者研修課程を地域に還元し、キャリアアップ、専門性の向上、再就職、資格取得のための学習の場として提供している。平成 30 年度より教育訓練給付制度講座の指定を受けている。令和 4 年度も更新手続きを行い、引き続き指定を受けることができたが、受講者はいなかった。

⑤ 花いっぱい運動 継続（平成 30 年度～）

入試・広報センターと連携して、「花のあるまちづくり」推進の一助として、学内農園で栽培したマリーゴールドの苗を、本学周辺地域に配布した。大変好評であった。

⑥ 地域防災避難訓練 継続（平成 30 年度～）

「安全で安心なまちづくり」を推進するため、防災・環境委員会と連携して、今年度で 4 回目の取り組みとなる地域住民参加型の地域防災避難訓練を実施した。本学の専門性を活かした避難所体験を設定することは、学生の防災意識を啓発し、毎年ステップアップした防災訓練につながるものと考えられる。

(イ) 高等学校との連携の推進

入学者の確保につなげるために、高等学校等の出張講義や体験授業（平成 24 年度から継続）の窓口となり、高等学校との連携強化に努めた。出張講義については、出張講義一覧を作成し申し込みを受け付けた。

奈良女子高等学校から申し込み（「介護のお仕事」）があり、対応した。体験授業については、進学者の仲介によるものを中心に、要望に応じた。また、進学者を介さない個別の依頼としては、奈良県立榛生昇陽高等学校から保育関連の授業依頼が、奈良文化高等学校から食物関連依頼の授業依頼が 1 回ずつあり、それぞれ対応した。奈良県介護人材確保対策総合支援事業を利用して、8 月 31 日（水）に奈良県立磯城野高等学校の生徒 40 名を本学に受け入れ、機械浴等を体験させた。

また、下表の高等学校と高大連携協定を締結しており、今年度は校名変更に伴い 2 校と新たに協定を結び直した。

1	奈良文化高等学校	連携校	H25 締結	
2	奈良県立高円高等学校	連携校	H25 締結	奈良県立高円芸術高等学校に変更。R5 締結
3	奈良県立榛生昇陽高等学校	連携校 特別連携校	H25 締結 R 元締結	

4	奈良県立磯城野高等学校	連携校	H25 締結	
5	奈良県立二階堂高等学校	連携校	H29 締結	
6	奈良県立奈良朱雀高等学校	連携校	H23 締結	奈良県立奈良商工高等学校に変更。※ R5 締結

※定時制は、奈良朱雀高等学校として平成5年度も継続。

(ウ) 国際交流の推進

海外から来学される訪問団受け入れの事前準備や学内調整等を行うとともに、交換留学生の受け入れ窓口となり受け入れにつなげ、国際交流に努める。

① 交換留学生 継続（平成22年度～）

大連大学から3名の交換留学生（生活未来学科食物栄養コース）を受け入れた。

新型コロナウイルス拡大防止のため閩南師範大学からの申込みはなかった。

令和4年度も出入国在留管理局から「適正校（在籍管理優良校）」の認定を受けた（R4.10.12付）。

② 海外からの訪問団・外国人留学生

海外からの訪問団についての問合せや申込みはなかった。

新型コロナウイルス感染症の拡大等を鑑み、日本語教育別科の募集を停止した。また、本科についても外国人留学生入試の志望者はいなかった。

令和4年度の外国人留学生の在籍状況は下表のとおり。

	年次 (回生)	国 籍	人数 (名)		年次 (回生)	国 籍	人数 (名)
本科	1	スリランカ	1	本科	2	ベトナム	11
						バングラデシュ	2

合計24名

(エ) 専門職人材バンク 継続（令和元年度～）の取り組み

専門的な知識・技術や様々な経験を有する卒業生・学生の人材バンクを創設し、その登録者と地域住民（高校生・社会人）をつなぎ、本学が新たな地域づくりに貢献することをめざした。卒業生等に向けた広報や登録の周知が難しく、人材バンクとしては効果的な運用ができなかった。

また、令和3年度からスチューデント・アシスタント（SA）制度を試験的に導入しているが、本年度の活用はなかった。

2.附属生駒幼稚園

今年度は、コロナ禍が続いている中ではあるが対応が緩和化されコロナ前の行事や活動を少しずつ取り入れ子どもの育ちや学びを大切に考え、心身の健康管理を十分に配慮し保育を進め取り組んできた。また、近隣の環境状況によりドライブスルーによる登降園方法を廃止しなければならなくなった。法人とも相談しながら教職員で話し合い常に情報交換し様々な方法を考え安心安全な園づくりに努め取り組んできた。

保育に関する事業

- 1) 子どもらしくのびのびと遊び、自分で考え力いっぱい表現し、主体的に活動する幼児の姿をめざして
 - ・幼児にとって遊びや学びの大切さを教師間で共通理解し、常に保育環境や保育内容の見直しを行い実践を重ねた。
 - ・ひとりひとりが自分で動き出せるように“急がせないでゆっくりゆっくり”その子なりの育ちを大切にされた保育に努めた。
 - ・日々の保育の中で保育の振り返りと幼児理解に努め、指導計画の立案を行った。
 - ・週案の作成と保育記録の徹底・・・学年ごとの連携と見通しをもった指導計画は、保育内容の充実に繋がった。
 - ・園生活における状況記録(発達、病気、怪我、出来事、他)・・・速やかに事象を報告し、教職員で共通理解し対応していくことの徹底に努めた。常に各学級の情報交換を実践した。(朝の会、会議等で報告)
 - ・特別な支援を要する子どもに応じた「個別の支援計画」を作成し保護者や専門機関と連携を図り指導に努める。
 - ・各学年にフリー教員を配置し保育の補助をしていくことでひとりひとりに寄り添った関わりができた。
 - ・フリー教員の日々の記録と情報交換ノートの作成・・・各学年・学級の様子や個々の幼児への対応がわかり教職員で共通理解することができた。
 - ・基本的な生活習慣の実態把握と充実・・・“げんきなならっ子”運動では園独自の取り組みカードを作成する等の工夫をして取り組み学年に応じた指導を行った。家庭と共に取り組むことで保護者の「幼児の生活習慣」への意識が高まってきたと思われる。(お手伝いやあいさつが自らできるようになってきた)
 - ・給食指導の在り方の再確認・・・食への興味や食事の仕方等の指導の工夫(コロナ禍の中での食事の在り方等)発達段階に応じた箸の持ち方の指導
 - ・家庭との連絡状況・・・コミュなび、電話、送迎時など連絡は、こまめにするよう工夫し“子どもを真ん中に”保護者との連携につなげた。何のための連絡かを意識して話すことを心掛ける。
- 2) より良い環境づくり
 - ・体を十分動かし安心、安全に遊べる環境整備・・・固定・移動遊具の点検と子ども達が十分に楽しんで遊べる環境の見直しを定期的に行い改善に努めた。
 - ・子ども達にとって、小さな命の営みに触れる小動物の飼育を大切に考え、各学級で子どもと相談して飼育する。(衛生面に十分気を付け行う)かめ ハムスター モルモット めだか ザリガニ かたつむり等園全体・・・うさぎ2羽(飼育小屋を園庭に設置)
 - ・季節感や、日本の伝統行事を大切に伝える工夫を行う、5月の節句(五月人形飾り、こどもの日の集い)、9月月見飾り、12月クリスマス(クリスマス会)、1月正月(鏡餅等)2月節分(豆まき)3月の(雛飾りひなまつりの集い)等・・・保育内容や環境の工夫に努めた。
 - ・保育室内外の環境の見直し・・・各クラス及びトイレ・手洗い場等、掃除と消毒の徹底。園庭の花壇や新園舎屋上の畑を利用し幼児が身近に自然に触れる環境を工夫し保育内容に取り入れた。
 - ・新園舎東側屋上に人口芝を敷き幼児がのびのびと活用できる場を考えた。
 - ・クリーンタイム(毎月1回)・・・子ども達と共に園舎内や園庭、畑の除草、清掃を行い「みんなの幼稚園をきれいにしよう！」の意識を高めるよう計画を立て行った。
- 3) 幼児にとって豊かな体験のための行事や活動を教職員で確認しながら行った。
 - ・誕生会・・・ホールで全園児や保護者(誕生児)みんなで祝うことができた。(コロナ感染状況を見ながら)

- ・遠足・・・下見を十分にいき各学年の発達に応じて実施した。
春・・・年少園隣の公園（相模公園）・年中（大淵池公園）・年長（山麓公園）
秋・・・年少、年中（生駒山上遊園地）年長（ボーイスカウト奈良第18団活動拠点ピザ作り）
- ・こどもの日の集い・七夕の集い・雛祭りの集い・・・ホールに集まり全園児で行い楽しむことができた。
- ・クリスマス会・・・短大よりサンタさんが来てくださり全園児で夢のある楽しいクリスマス会となった。
- ・運動会・・・幼稚園の園庭で学年ごとに3日間行った。保護者2名座席指定席、感染予防を考慮し各学年の競技や演技を行った。保護者には、子ども達の成長の姿を身近かに見ていただきました、親子競技や保護者競技に参加していただき共に楽しい時間を過ごした。
- ・作品展・・・作品や掲示の仕方を工夫し各学年テーマを設け取り組み成果を見ていただき保護者と共に楽しむことができた。今年度の振り返りをし、来年度に繋がるよう更に工夫をしていきたい。
- ・お泊まり保育(年長児 信貴山観光ホテル) 10月・・・昨年同様、コロナ禍の中での実施となったので事前に保護者アンケートを実施し計画を立てたが新型コロナ感染状況により中止となった。年長児にとって楽しみの行事であり、学年としての取り組みや子どもの貴重な活動であることから今年度は、「お楽しみ保育」として内容を子どもたちと話し合いゲームやキャンプファイヤーを入れる等工夫して行った。子ども達にとって楽しい思い出の活動となった。
- ・お別れ遠足(年長児)・・・大型観光バスに乗り「ドリーム21」広い施設で思いきり身体を動かし楽しい一日となった。「楽しかった！また行きたいな！」と子どもからの声が聞かれ楽しい幼稚園生活の思い出となった。
- ・生活発表会・・・今年度は他学年の子どもの姿も保護者に参観していただき子どもたちの成長に共感していただく機会となり幼稚園教育理解に繋がった。園内外のコロナ感染状況を見ながら2日間保護者2名参加で行った。
- ・避難訓練・・・学期に1回行う。避難場所や避難の仕方、「おはしも」を知らせる。避難場所の確認
- ・チューリップ会・・・今年度卒園した新一年生を迎える。園庭や保育室で歌を歌ったり遊んだり久しぶりの幼稚園や先生、友だちにワクワクがいっぱいで楽しく過ごすことができた。
- ・マラソン大会は中止となった。(来年度に向けて実施方法を考えていく)

4) 特別活動（外部講師起用）の充実

- ・外部講師教室の見直しと充実に努めた。
 - 年長・・・茶道教室(年4回) 畳の部屋での座り方やお茶の作法を学び、自分でお茶をたておいしくいただいた。経験を重ねる中で茶道の部屋に入ると背筋を伸ばし今はどうすればよいか気持ちも変わり自ら考える姿が見られた。最後の会では、保護者に参加していただき子どもたちがたてたお茶をもてなすことができた。
 - ・体育指導(月1回)・サッカー(年間8回)・書き方教室（保育後希望者のみ）
 - 年中・・・体育指導(月1回) サッカー（月1回）
 - 年少・・・体育指導(月1回) バランスボール（月1回）
 - ・各学年共通・・・英語教室(週3回)
- 子ども達が自由感のある中で、自然に英語（英語を話す人）と接する環境、また、幼児期に楽しみながら、自分と異なる言葉を話す人に興味を示し、自ら楽しみやってみようとする姿を大切に行っている。講師先生と園が話し合い「英語を教える」ではなく、子どもの実態に沿って無理なく行ってきた。「グッドモーニングメグ先生！」と自分から親しみをもち挨拶をしたり一緒に遊んだりして楽しく過ごす姿が見られた。今後、発達段階を考え内容を更に工夫しながら無理なく進めていきたいと考える。

運営に関する事業

1) 安全対策について

- ・送迎時の安全管理の徹底・・・無線機を使用することで、スムーズに連絡が取れ送迎の様子が把握できた。
- ・災害時のバス位置確認や乗降時の様子確認のために、連絡方法として無線機で連絡をスムーズに行う。

- ・登降園時に保護者駐車場に駐車場警備員が立ち安全面に配慮してきている。
- ・バス送迎の安全点検・・・バスに安全装置を設置し日々の安全点検（チェックシート）を行い職員間の連携に努める。
- ・遊具点検の強化・・・安全点検表を作成し学期に1回、職員全員で点検を行う。
- ・危険か所に防犯カメラを設置し常に確認する。

2) 園内研修の実施

・教員の研修時間の確保

毎朝の打ち合わせと共に子どもの姿を共有し、実践につなげた。（日々の積み重ねを大切に）

保育内容の充実に向けて、子どもの見方、幼児期の発達姿、教師の役割、幼稚園の役割等、基本の学びに取り組み、同時に年間指導計画、週案、保育振り返りを大切に、学年ごとに主体的に取り組んだ。

・週案の作成と指導計画の見直し

今日の子ども達の生活から明日の保育を考え、経験させたいこと、配慮すべきことから活動のねらいをもち、そのための環境を整え毎日のすることを記録していくことで自分の保育が見えてくる。

・教員研修の充実・保育内容の精選

毎日の保育後、各家庭と連携をとり進めていくことの大変さからコミュなびを利用し素早く連絡が取れるように工夫してきた。また今年度、保護者との連絡時間を制限することで翌日の保育計画や準備等に時間を費やすことができるようになった。コロナ対応が緩和化され、コロナ前の行事が入ってきたことで特に二学期の行事が多くなり職員間で十分に話し合う必要性を感じた。職員がそろって研修する時間の確保が難しかったが、様々な方面に配慮、工夫し行うことで実施できた。また、子どもにとって大切な行事や活動の内容を検討しての実施は、子ども・先生・保護者にとって大変有意義なことであり成果を上げるものとなった。

3) 各研修会参加

- ・コロナ禍の中状況に応じてオンラインになったり対面で行われたりしたができる限り参加し日々の実践に繋げることができた。

その他の事業

1) 預かり保育の実施と充実

家庭的な雰囲気大切にゆったりとした空間の中で、預かり担当教諭が話し合い、異年齢の子ども達とふれあい楽しめるように環境を工夫し行った。保護者の就労や家庭の事情等の理由で預かり保護者支援に繋がっている。（保護者の思いを聞きながら柔軟な対応ができるように工夫し取り組んできた）

2) <さくらんぼ>来年度入園予定児、<ひよこ>満3歳児入園予定児（未就園児）登園日の充実

保護者と一緒に登園し、先生や在園児とふれあい遊びをしたり絵本やお話にふれたりして園生活を楽しむ。（就園率につながるよう内容を工夫して取り組んできた）

3) 家庭（保護者）との連携

- ・担任と連絡を密にする・・・コミュなび、電話、手紙、家庭訪問等。
- ・園だより担任からの「クラスだより」園長の「えがおのたね」を設け、子ども達の成長や子育てに今、大切にしたいこと等を保護者と共有する機会とした。
- ・新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら学期ごとの個人懇談会2回行った。保護者と子育てについて話し共有できた。
- ・保護者親睦会（6月）・・・各学年ごとに保護者が集まり育友会役員さんの司会進行で行われる。子育ての悩みや家庭での様子を出し合い保護者同志の親睦を図ることができた。
- ・給食試食会・・・給食業者の協力で食育についての講話を聞き試食していただく。

4) 地域との連携・交流

- ・地域の行事・・・地域の納涼祭に年長児和太鼓披露、生き生きホールオータムフェスタ年長和太鼓参加、地域清掃運動に教員参加
- ・年3回推進委員会参加・・・保育園・小学校・中学校協力

- ・鹿ノ台いきいきホール・・・掲示物や作品展示物で参加
- ・鹿ノ台小学校との交流・・・感染状況を見ながら少しでも行いたいと思っていたが、自園の行事と重なり難しかった。入学後授業の参観を行った。特別支援関係では、入学前に子ども様子について校長先生と保護者が話ができたり入学する子どもについて教員同士が話し合ったりして交流することができ互恵性があった。
- ・資源回収の協力
- ・農園見学・・・チューリップ鑑賞年長児が参加した。
- ・芋ほり体験地域団体E C O K Aグループ（年中児）思いきり身体を動かして楽しい芋ほりの経験となった。また、地域の方々のお世話になり優しさや温かさを感じ子ども達にとって良い体験となった。
- 5) 各市との連携協力体制強化
 - ・生駒市、奈良市各市子どもサポートセンターと交流し、様々な事象を共有しながら保育に繋げた。（要対協3名）
 - ・生駒市私立公立幼稚園保育園認定こども園合同園長会会議及び研修会に参加
- 6) 奈良佐保短期大学との連携
 - ・教育実習・・・実習1回生、2回生 見学実習
 - ・地域こども学科フィールド授業参加・体育指導は、広い体育館で実施。保護者参観実施
 - ・短大の畑でさつま芋の苗植えと収穫の体験（学生と一緒に）
- 7) 施設・設備等の修理・設置・充実
 - ・本館の幼児用トイレの排水管男子便器の取り換え等の工事・新園舎の窓枠（木製）の修理
 - ・玄関前に防犯カメラ設置・バスに安全装置設置
- 8) 各補助金・助成金の積極的申請
 - ・奈良県幼児教育の質の向上の為の緊急環境整備事業「新型コロナウイルス感染症対策」補助金
 - ・令和3年度より新制度へ移行補助金は、生駒市の加算適用申請書に基づき各市町村（生駒市、奈良市、木津川市、精華町）から毎月補助金をもらう。
 - ・生駒市幼年消防クラブ助成金
- 9) 募集について
 - ・入園説明会や園見学の進め方と内容の工夫に加え、ホームページの充実に着手。

その他

- 1) 特別支援を要する園児については、積極的に各専門機関との連携をとり保育に活かすことができた。
- 2) 衛生管理の見直し・・・コロナ感染拡大防止のため手洗い、うがい、消毒の継続と徹底
保護者の協力により、継続して消毒液の無制限使用が可能となる。
- 3) 各進学小学校との連携・・・新1年生授業参観・幼保小連絡会・入学予定者懇談会に参加（幼小連絡会や電話等で連絡をとったり小学校の先生が保育参観されたりする等各小学校に応じる）
- 4) 消防関係
 - ・消防設備立入検査実施
 - ・消防フェスタに参加（年長）
- 5) 4月当初よりバス業務は委託を継続、3月バス安全装置を設置し徹底して安全を確保

3. 認定こども園附属河内長野幼稚園

コロナ禍3年目、5月14日（土）土曜保育の職員から年中クラス園児複数名のコロナ感染の報告があり、急遽園長、副園長、主幹教諭が園に集合し次週の（月）・（火）を1号こどもを休園に、一週間4歳クラスを学級閉鎖にした。（2号こどもは保育を継続）その後もコロナに振り回された一年となったが、本来の子どもたちの育ちに少しでも近いものと思い、職員みんなで相談し工夫をした一年でもあった。制限のある中、やりたいこと、何が一番大切かを見極めながら、ほぼ予定どおり園活動を進めることができた。

保育に関する事業

（1） 「あそび」はこころとからだを育てる。子どもは教えられて育つのではなく自ら学び育つものであるという考えを基に、目の知識の詰め込みや教え込みではなく子どもたちの自然でたくましい育ちを助けるよう、たっぷり とことん遊びこめる環境を整え援助をした。

（2） 親子で「眠育」は昨年度に続き中止。

（3） 絵画製作（月1回）や体育教室（月2回）、英語遊び（月2回年中・長のみ）の活動も専門の講師の下、ますます充実し講演会や参観などを通して保護者の深い理解を得た。

運営に関する事業

（1）安全対策について

- ・引き続き万が一、不審者の外部からの侵入などの不測の事態に備えて教職員の訓練を行い、行事の際には保護者の協力を得て園内のパトロールを実施していた。

- ・遊具の点検は年に2回業者に依頼。園の教員では学期毎に点検を行った。

（2）使用期限が過ぎたAEDを新しい物に入れ替えて、AEDの操作方法や手順、心肺蘇生法などの確認。

（3）教員のスキルアップ

（ア）外部より専門の講師を招いて絵画製作の研修を行い、クラス毎に研究発表をし、意見の交換や評価をして保育の質の向上を図った。

（イ）外部より専門の先生を招いて体育・運動あそび、ゲームの研修をした。

（ウ）大阪府の新任研修は府教センター等で実施することができた。河内長野市私立幼稚園連絡協議会の教員研修は中止

◎zoomやオンデマンド配信の研修がほとんどであった。好きな時間に受講できるオンデマンドにより、各個人による多くの学びを得ることができた。

（4）5月14日（土）大阪大谷大学あべのハルカスキャンパスに於いて大阪私立幼稚園連盟南大阪支部の就職フェアには、採用予定がなかったので不参加。

（5）コロナ対策について

園としてとる対策を随時、保護者に手紙やアプリで知らせた。

その他の事業

（1）預かり保育

- ・月～金曜日の早朝預かり（7：30～8：00）の実施。

- ・土曜日預かりの早朝預かり（8：00～9：00）の実施。

（2）2号こどもの保育の充実

- ・1号こども降園後の2号こどもの心的援助と環境の整備。

（3）子育て支援活動推進事業の実施

- ・昨年度に続き、満2歳～就園までの子どもとお母さんを対象に未就園「たんぼぼ」の実施を週1回行った。遊びの場としてだけでなく、子どもやお母さんの友達作り、子育ての悩みや相談などお母さんの話を聴く場としても広く開放した。

（4）・月に1回、年齢に関係なく地域の未就園児を対象に約1時間、園庭を開放した。同じ時間に絵本コーナー

を開放し、卒園児保護者のボランティアによる絵本の読み聞かせや貸し出しの「さほっこ文庫」を開設した。「さほっこ文庫」は天候に左右されることなく実施できるので、利用しやすいと好評を得ている。

・2歳の一時的預かり保育の実施。(定員6名。1歳10ヶ月頃からも状況に応じて可能とした。)

- (5) 毎月行っている参観は一年を通じて開催することができた。
- (6) P T A (佐保の会) 活動は、少しづつではあるが実施できた、行事毎に募っている保護者ボランティアの募集はできなかった。
- (7) 年長児の鍵盤ハーモニカは一年を通じて中止。
- (8) 春(長野公園)の園外保育は実施。秋(和歌山県立自然博物館)の園外保育の代わりに、近くの烏帽子公園に園のバスで行った。
- (9) コロナ前に実施していた年長児の宿泊保育は昨年度に続き中止。内容を変えて7月25日にデイキャンプを行った。
- (10) さほっこなつまつりは園外に向けての呼びかけはなし。飲食やワークショップはなし。内容を少し変えて在園児のみで園内だけで行った。
- (11) プール遊びは実施。
- (12) 夏休みの15日間を自由登園とし、「わんぱく」と名付けて無料で縦割りの活動は、7月末までの短縮版で行った。
- (13) 市内9園が所属する河内長野私立幼稚園連絡協議会開催の幼稚園まつり。ラプリーホールにて人形劇を観賞。(開催直前に中止)
- (14) 10月 加賀田フェスティバルに職員が参加し絵本の読み聞かせ。(昨年度に続き中止)
- (15) 10月 加賀田ふれあい交流会 (昨年度に続き中止)
- (16) 10月23日(日) 運動会は、観覧の人数制限、検温、消毒、マスク着用等、コロナ対策をとり実施。
- (17) 5月26日じゃがいもほり、10月27日さつまいもほり(くろまるファーム)、11月22日みかんやま(奥畑みかん園)で収穫体験
- (18) 11月20日(日) 作品展。コロナ前、市の市民交流センターのイベントホールを借りて開催してきたが、作品の搬入、展示、搬出に保護者ボランティアが必要不可欠であるため、昨年度に続き分散。園で時間をずらして各クラスごとに開催。
- (19) 12月6日移動動物園。
- (20) クリスマス会、お別れ会は実施
- (21) おもちつき (昨年度に続き中止)
- (22) 2月18日、19日開催参加、市内の小中学校と幼稚園の絵画活動の発表の場として開催の「キッズアート展」
- (23) 2月19日生活発表会、時間をずらして各クラスごとに開催。総入れ替え制。観客席の間隔を大きくとる、観覧の人数制限、検温、消毒、マスク着用等、コロナ対策をとり実施。
- (24) 3月15日卒園式 在園児、短大や地域の方等の来賓なし。参加者は卒園児保護者2名に限定して実施した。
- (25) 保護者対象のフラワーアレンジメント (昨年度に続き中止)
- (26) 保育終了後に空き保育室を利用したの課外活動を、引き続き体育教室、ピアノ教室、英語遊びを実施。

幼稚園評価の実施

保護者アンケートを行ない、その結果を施設関係者評価として学園の評価委員5名の先生方をお願いした。(5月12日現在、評価委員に依頼中)

※中止になったものはコロナ感染拡大防止対策のためであり、大阪府や河内長野市からの要請を受けて、市内の小中学校、幼稚園、認定こども園で連携を取り話し合った上で決定しました。

※園長会、支部会は、状況に応じてオンラインや対面で行われました。

市内の園長会は毎月、支部会は約二か月に一回行い、情報共有しました。

4. 附属倉敷幼稚園

保育に関する事業

(ア) コロナ禍であっても稲の栽培を行い、「米の収穫後の藁でお飾りを作り、どんど焼きで燃やし、その灰をじやがいもの種いもに擦り付けて除菌後、いもを植える」という一連の作業を通して命の繋がりを知らせている。他にも花・野菜の栽培、小動物の世話等を通して、自然との関わりの中で命の尊さについて知らせると共に、毎月行われる誕生会でも「生んでくださって有難う」「育ててくださって有難う」の言葉を園児から保護者に伝えるように知らせていった。

また、「ひとを大切に、ものを大切に」、ひいては命を大切に、そして全てに感謝の気持ちを抱くように伝えていった。

(イ) 「心と心のキャッチボール」を合言葉に円滑な望ましい人間関係の育成に努めた。

(ウ) 体育遊び教室（月2回）、モンテッソーリ活動（週1回）、リトミック活動（月2回）、英語遊び活動（月1回）等、非常勤講師の指導の下での遊びも充実させた。

特に、モンテッソーリ活動を充実させることで、園児の自主性を確立させ、集中力を養うことに貢献した。

(エ) 年中児を対象に、「歯科から見た食育～お口の機能、育っていますか？～」をテーマに園歯科医により、月1回ずつ実際の食べ物を口にしながら体験活動の指導を受ける予定であったが、今年度は11月に1回のみ“五味五感”についての指導を受けた。

(オ) 例年だと、実際に本物に触れ、体験を通していろいろなことを知り学ぶための数多くの行事や活動に取り組むところだったが、コロナ禍のため、できるだけ工夫しながら行いながらも去年に引き続き、かなりの制約を受けた。

運営に関する事業

教員のスキルアップ

(ア) 昨年は岡山県私立幼稚園連盟と倉敷市私立幼稚園協会主催の、講演・実践・グループ協議等を中心に多くの研修・研究が中止になったが、今年度はどの研修もリモート会議形式にて、園内で講義を受け、レポートを提出するという方式で教員の資質向上を図った。

(イ) 全日私幼連から出されている教員の資質向上のための俯瞰図にのっとり、県私幼連・市私幼協・県及び市主催の各種研修会も参加する予定であったが、今年度もコロナ拡大防止のため対面研修はできなかったが、昨年とは違って、いろいろなIT機器を使い工夫しながら研修を受けた。

(ウ) 例年は8月末に、中国地区私立幼稚園教員研修会（令和3年度は山口大会）が開催され、講演会・研究発表に参加する予定であったが、山口県私立幼稚園連盟の尽力により、数日間の間の自由にできる時間内でzoomによる研修を園内で受けた。

(エ) 岡山県私幼連主催による令和3年度全体教員研修、及び主任研修、中堅研修は夏休みの一定の期間内でキャストリーによる動画配信により研修を受けた

(オ) 6月の県私幼連の総会・研修会、11月の県私幼連開催の公開保育は、形を変えて開催された。特に秋の公開保育は専門のカメラマンによる子ども達の遊びの録画を見ながらパソコンにて研修を受け、各園の教員は、皆、刺激を受け、良い研修となった。

(カ) 特別支援を必要とする園児に対し療育施設の先生の訪問を受け園生活が、そして就学に向けての接続がスムーズになされるように努めた。

(キ) 毎日の終礼を中心にその日の保育実践や子どもの様子について園内研修を進め、各教員のコミュニケーションを密にした。特に、コロナ禍における行事変更や活動の見直し等、教員全体で充分話し合いを行い、予定変更については直ちに保護者に一斉メール送信をすることで便宜や連携を図った。

その他の事業

(1) 預かり保育の実施

コロナ禍でもできる限り、預かり保育（毎日、保育終了後～17：00まで）を継続して行い、長期休業（夏休み・冬休み・春休み）中の預かり保育（8：30～17：00）も行い、保護者のニーズに添った。

(2) 子育て支援活動推進事業の実施

県より支援を受け、未就園児の幼児クラブを月1回継続して行い、「子育て支援活動推進事業」に取り組み多くの未就園児親子に喜ばれている。但し、1月・2月については岡山県まん延防止措置がとられたため、やむなく中止とした。

(3) ボランティア組織

P. T. A 役員以外に、今年度も保護者からボランティアを募り、各種園行事への支援をお願いするところだったが、コロナ禍のため、教員が行った。しかし1学期末の夕涼み会はサマースクールと名を変え、PTA役員のアイデアで楽しく開催され、子ども達も大満足であった。

8月末のP. T. A 会員による、園内外の清掃、団地の駐車場・通学路の清掃は主に教員が行い、保護者には2学期に入り、登降園時を利用して草刈り他をお願いした。

(4) 倉敷市私幼協主催第42回くらしきキンダーフェスティバル

5月に開催の予定だった倉敷市私幼協主催第42回くらしきキンダーフェスティバルは、コロナ禍のため密を避けるため昨年に引き続き中止となった。市内17園の5歳児900名以上の全園児とその保護者・教職員が集い、皆で楽しく半日を過ごし、かけっこや他園とのふれあい競技の他に、広い球場に色とりどりのパラバルーンの花を咲かせる予定であったが、残念である

(5) 年長児のお泊り保育

昨年に引き続き、8月末に国立吉備少年自然の家にて、過去何十年と続いている年長児のお泊り保育を予定していたが中止となり、代わって秋の遠足で園バスを利用して施設探検や遊具で遊んだ。他にもPTAの主催でサマースクールが行われ、魚釣り・輪投げ等のいろいろなゲームのお店屋さんの体験を楽しんだ。

(6) 実習等の受け入れ

6月と秋に地元の大学生の実習を受け入れた。

11月には奈良佐保短期大学より学生を受け入れ、共に研修や遊びを楽しむ予定であったが2年続けての中止となり、残念であった。

(7) 音楽の会

秋に親子音楽会を開く予定であったが、今回も保護者の招待は無しで全園児で弦楽五重奏の演奏を聴き、感性の育ちの一助とした。

(8) 人形劇鑑賞

令和4年2月に地元の短大生(20名)が演じる迫力のある人形劇を鑑賞する予定であったが、新型コロナまん延防止重点措置が行われたため、残念ながら中止となった。

(9) 老人ホーム訪問

例年、春・秋と年2回、特別養護老人ホームに年長児が訪問し、手遊び・歌等、共に遊ぶことで老人から「命の大切さ・尊さ」を知ると共に、自分は他人の役に立っているという自己有用感、自己肯定感を体験するところであったが、2年続けて、今年度も中止となり、貴重な体験をすることができず、誠に残念であった。代表で園長が1学期には年長児作成のペンダントと畑で育てた玉ねぎを、2学期末には年長児がさつまいものついで作った大きなリースを届けて施設長に手渡し、喜んでいただいた。「来年にはお会いしましょう」との言葉をいただいた。

(10) その他

季節の行事の他、消防署・新幹線、オープンスクールで使用する材料のためにスーパーマーケットに行く等の園外社会見学に参加することで社会に触れ、その一員としての自覚が生まれるように促す体験をする予定であったが、全て中止になった。取りわけ、地元大原美術館への年5回何う見学では「世界の宝物」に接し、感性を育てると共に、見学マナーを身に付けることができなかったが、美術館さんから12月に1回のみのお招待を受け、世界の宝物に触れることができ、貴重な体験をした。

年中児の時計屋見学は「時の記念日」から随分と遅れた11月に実施、年長児の月を観る会も11月に親子で倉敷天文台に行き、大型天体望遠鏡で月や木星、土星を観て感動し、貴重な体験をすることができた。

(11) 避難のけいこ

月1回の避難のけいこを通して、火事・地震・不審者から身を守る訓練を積み重ねており、幼児とは思えないくらい素早く避難できた。とりわけ令和4年1月には、昨年に引き続き、倉敷警察署OBの2名の方が不審者への対応の指導に来園してくださり、実際にサスマタを使用し、職員が実体験をした後、年長児が細かく注意事項を聞いた。

(12) お茶会他

2月の年長児対象のお茶会では、佐保会岡山県支部会員を講師に招き開催の予定であったが、今年度も新型コロナまん延防止措置のため、中止となった。

他に卒業式の前の準備等、ボランティアとして佐保会員には常にお世話になっている。

(13) PTA 会員有志によるコーラス部

PTA 会員有志によるコーラス部「さほ×さほ smile」(部員約40名)の美しい歌声を、PTA 総会、誕生会等で聴いた。例年1月にある倉敷市私幼協PTA音楽交流会は今回も中止で、病院や老人ホームの慰問も中止となった。

原則、月に3回本園遊戯室にてマスク着用で練習に励んでいるが、新型コロナ禍で思うように練習ははかどらないのが現状である。

(14) その他

コロナ禍でも密を避けるため、クラスを2分して保育参観を行ったり、運動会・生活発表会も参加者を制限し、座席を指定する等、いろいろと工夫して行事を行った。

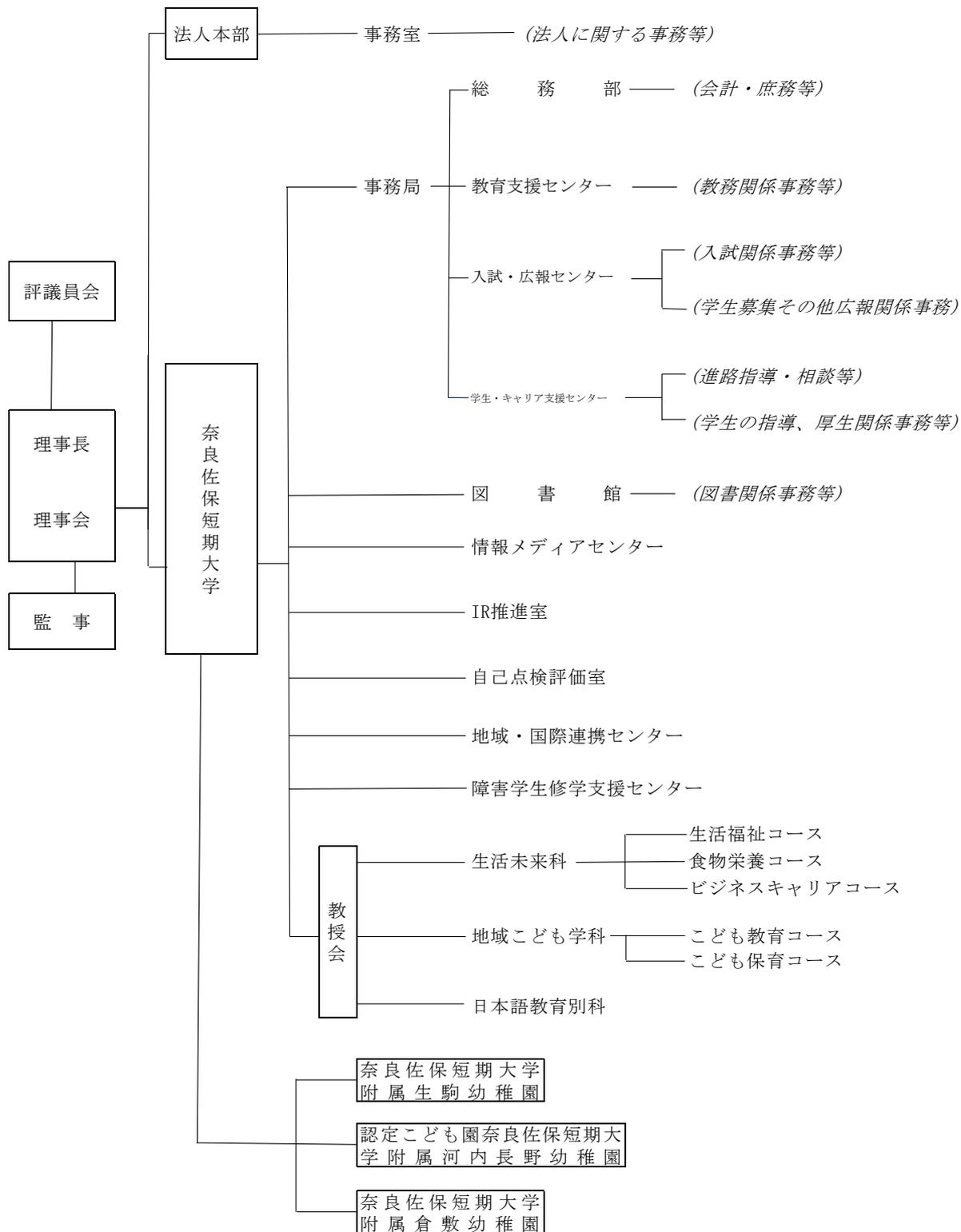
毎年、毎月行う行事もコロナまん延拡大防止策を取りながら行い、子ども達にできるだけ多くの体験ができるように留意した。

年度末のお別れ会では、恒例のカレー会食はできなかったが、事前に準備をしていたプレゼントを渡したり、

歌の交換をして年長児とのお別れを惜しんだ。

一つでも楽しい思い出を作って年長児を卒業させたいという願いの下、PTA役員もバザーに代わるものとして、常とは別に大々的な廃品回収の日を年2回設けて実施し、その収益で数多くの絵本や本棚をプレゼントしていただいた。今年度も昨年度に引き続き、職員、保護者、皆で力と知恵を出し合って考えてきた1年であった。この経験を是非、次年度へと繋げていきたいと思いながら新型コロナウイルスの終息を願うのみである。

6. 運営・組織機構



(※ 斜体文字は主たる業務・分掌をしめす)